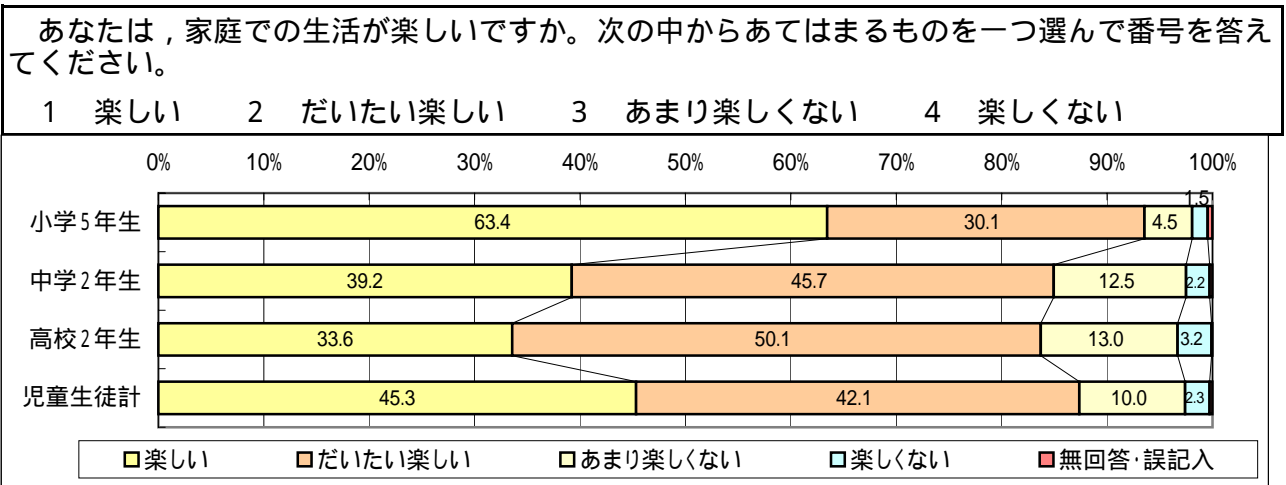


第3章

調査結果と分析

家庭生活

1. 家庭の楽しさ 【小学5年生...問4】【中学2年生...問4】【高校2年生...問4】

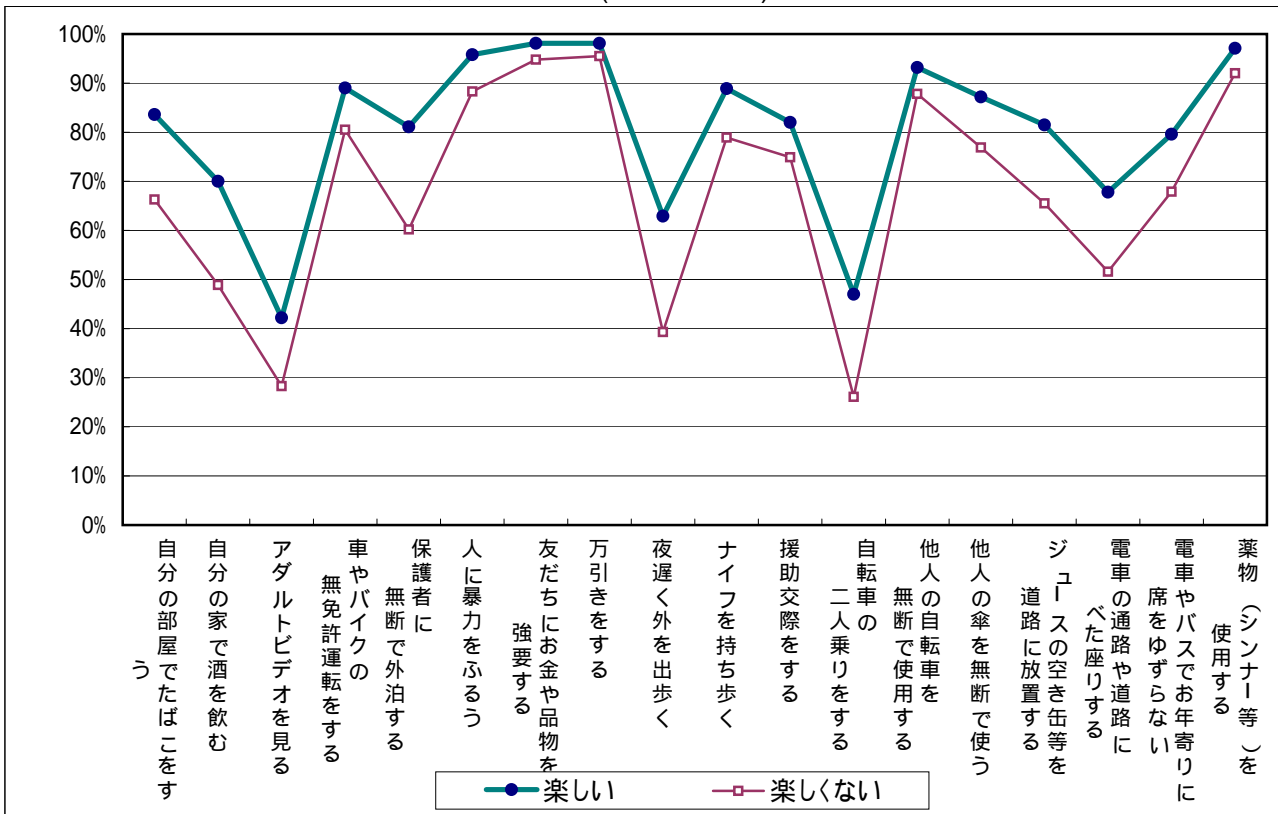


「楽しい」+「だいたい楽しい」は87.4%である。逆に、「あまり楽しくない」+「楽しくない」は12.3%である(小学5年生6.0%、中学2年生14.7%、高校2年生16.2%)。

「家庭の楽しさ」と「友だちの行為に対する善悪の判断」(規範意識)との関係

「家庭の楽しさ」は、「楽しい」(とても+だいたい)群と、「楽しくない」(あまり+楽しくない)群の二つに分けた。「友だちの行為に対する善悪の判断」は、「悪い」(とても+かなり)群と、「悪くない」(あまり+まったく)群の二つに分けた。

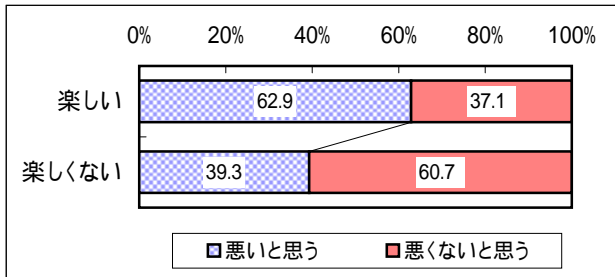
各項目に対して「悪い」と思うものの割合(全児童生徒)



家庭生活

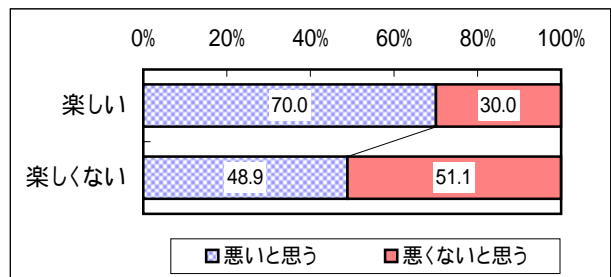
顕著な傾向を示した項目(全児童生徒)

【夜遅く外を歩く】



楽しい:n=2855 楽しくない:n=402 【***】

【自分の家で酒を飲む】



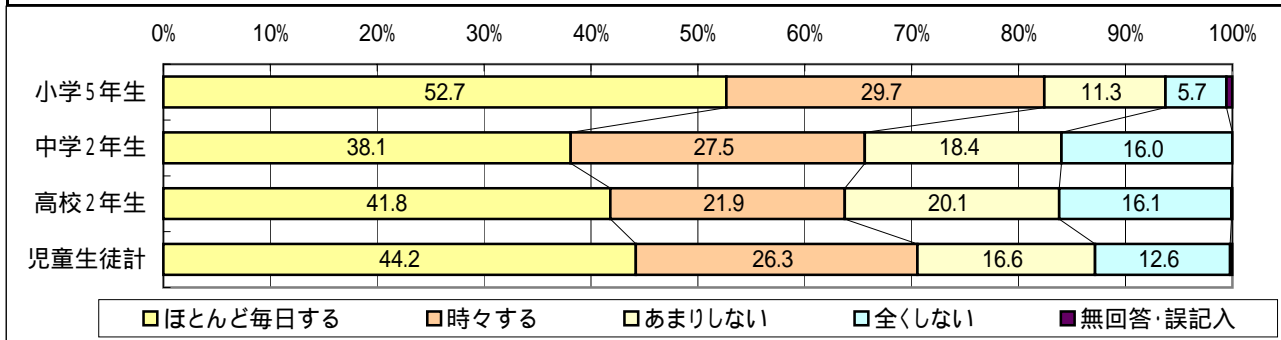
楽しい:n=2851 楽しくない:n=403 【***】

すべての項目において、「楽しい」と感じている群が、「楽しくない」と感じている群よりも、反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思う児童生徒が多い(全項目において有意差が見られた)。家庭の充実感が、児童生徒の規範意識を育成する際に影響を与えていることがわかる。

2. 朝の挨拶 【小学5年生...問5】【中学2年生...問5】【高校2年生...問5】

朝起きて、家の人に「おはよう」のあいさつはしますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

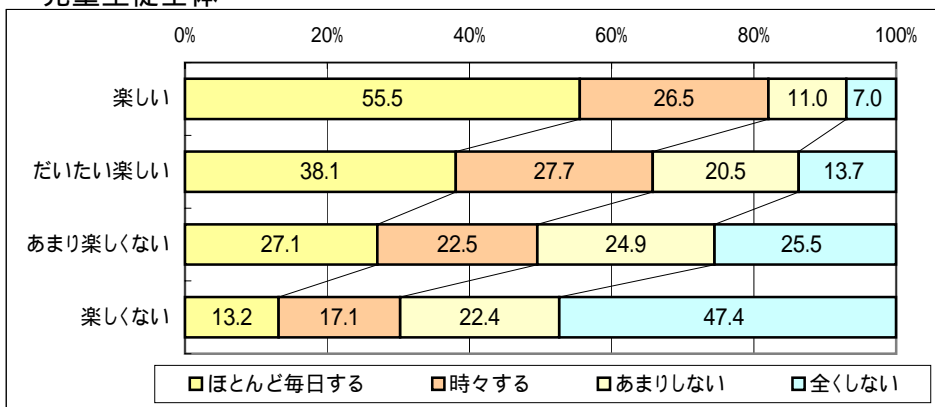
- 1 ほとんど毎日する 2 時々する 3 あまりしない 4 全くしない



「ほとんど毎日する」+「時々する」は、小学5年生82.4%、中学2年生65.6%、高校2年生63.7%と、小学生と中高生の格差が大きくなっている。

「朝の挨拶」と「家庭の楽しさ」との関係

児童生徒全体

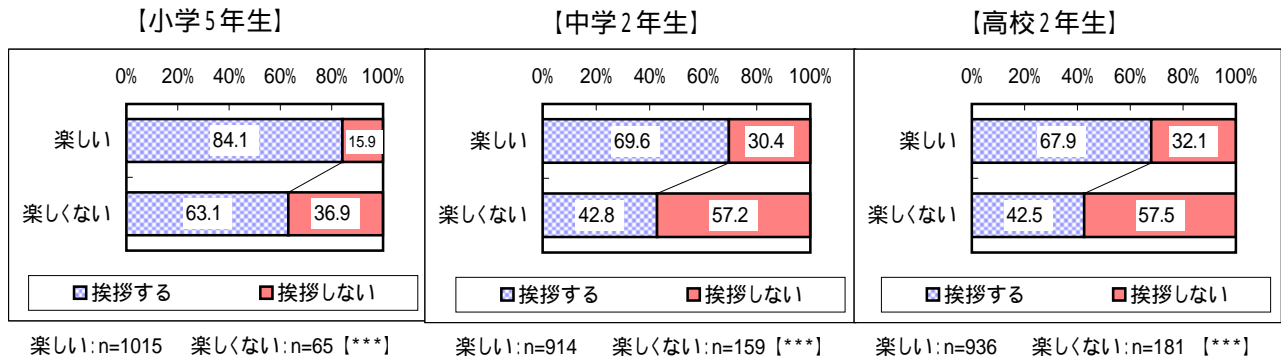


「家庭を楽しい」と答えた児童生徒は、88.2%が挨拶をしている(ほとんど毎日+時々)が、「家庭が楽しくない」と答えた児童生徒は、30.3%しか挨拶をしていない。「朝の挨拶」と、「家庭の楽しさ」とには、相関関係があることがわかる(0.1%水準で有意)。

家庭生活

学年別

家庭生活を「楽しい」(楽しい+だいたい楽しい)と感じる群と、「楽しくない」(あまり楽しくない+楽しくない)と感じる群に、朝の「挨拶をする」(ほとんど毎日+時々)群と、「しない」(あまり+全く)群にそれぞれ分けて、学年別にクロス集計をした。

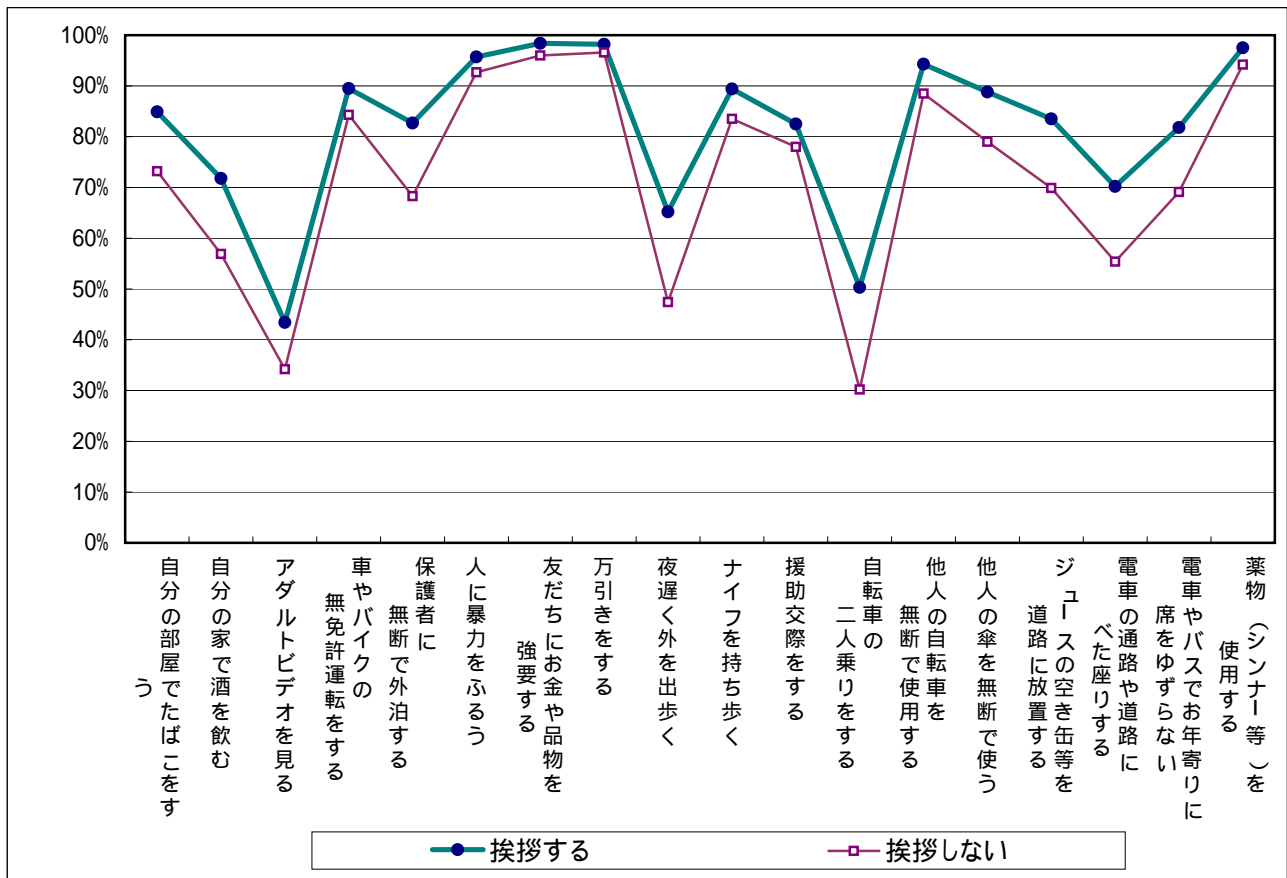


小学5年生，中学2年生，高校2年生とも，「楽しい」と答えた群が，「楽しくない」と答えた群よりも，「挨拶する」割合が20ポイント以上上回っている。各学年とも挨拶は，家庭の楽しさを示す一つのバロメーターになっている。

「朝の挨拶」と「友だちの行為に対する善悪の判断」(規範意識)との関係

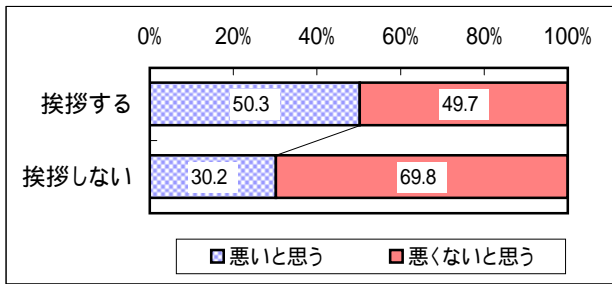
「朝の挨拶」は，「挨拶する」(ほとんど毎日+時々)群と，「挨拶しない」(あまり+全く)群の二つに分けた。「友だちの行為に対する善悪の判断」は，「悪い」(とても+かなり)群と，「悪くない」(あまり+全く)群の二つに分けた。

各項目に対して「悪い」と思うものの割合(全児童生徒)



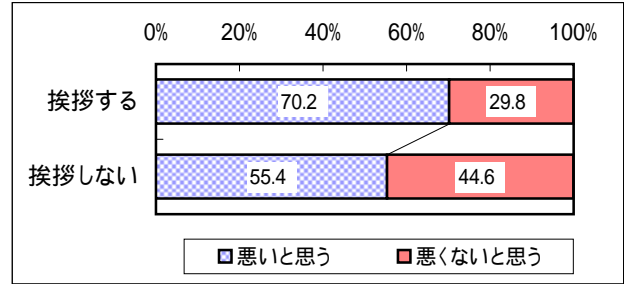
顕著な傾向を示した項目(全児童生徒)

【自転車の二人乗りをする】



楽しい:n=2304 楽しくない:n=954 【***】

【電車やバスの通路でべた座りする】



楽しい:n=2303 楽しくない:n=952 【***】

すべての項目において、「挨拶する」群が、「挨拶しない」群よりも、反社会的・非社会的行動に対して「悪い」と思う者が多い(全項目において有意差が見られた)。

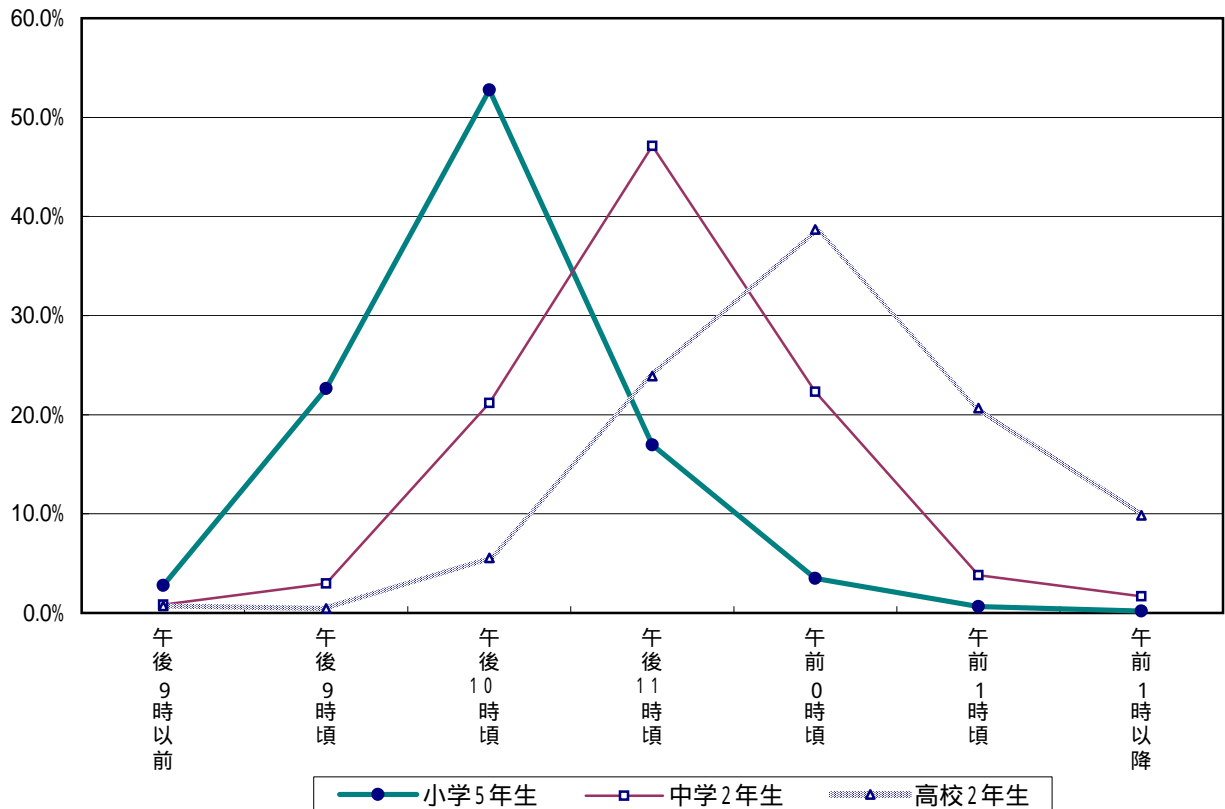
挨拶は、児童生徒の規範意識を図る際のバロメーターの一つとなっている。

挨拶で児童生徒の意識の現状をとらえるとともに、挨拶を積極的に励行して、社会性を身につけさせる指導をすすめることが望まれる。

3. 就寝時刻 【小学5年生...問6】 【中学2年生...問6】 【高校2年生...問6】

あなたはふだん何時頃に寝ますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- 1 午後9時以前 2 午後9時頃 3 午後10時頃 4 午後11時頃
- 5 午前0時頃 6 午前1時頃 7 午前1時以降

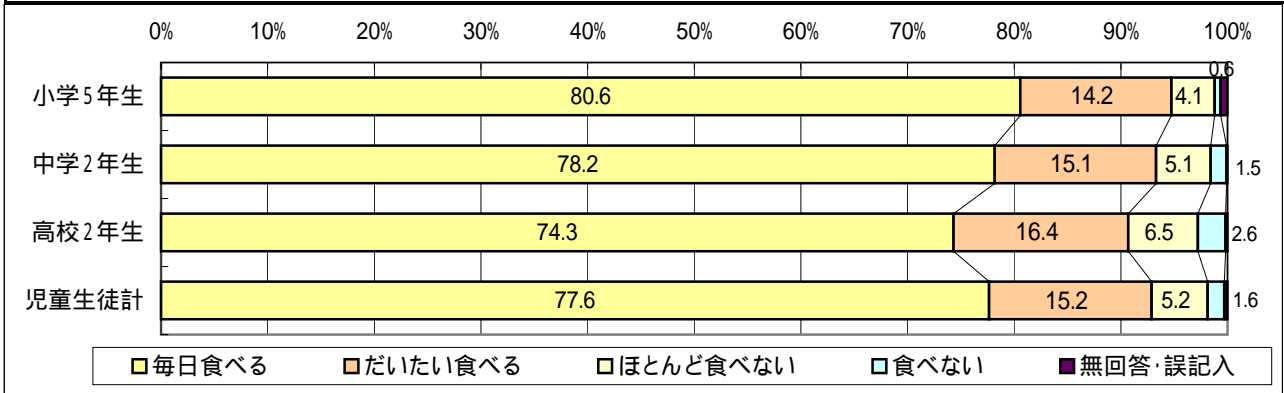


各学年のピークは、小学5年生では「午後10時頃」(52.8%)、中学2年生では「午後11時頃」(47.1%)であり、高校2年生では「午前0時頃」(38.7%)となっている。午前0時以降に就寝しているのは、小学5年生で0.8%、中学2年生で5.5%、高校2年生で30.5%である。

4. 朝食の有無 【小学5年生...問7】 【中学2年生...問7】 【高校2年生...問7】

あなたは、朝食を食べていますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- 1 毎日食べる 2 だいたい食べる 3 ほとんど食べない 4 食べない

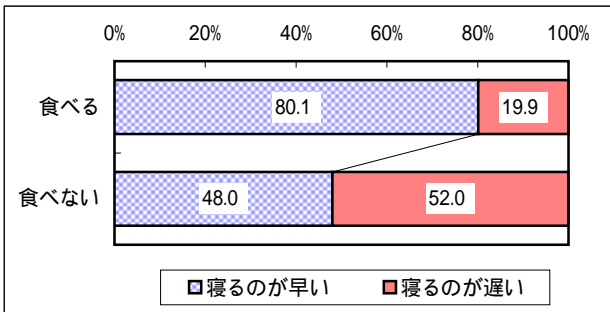


朝食を「毎日食べる」+「ほとんど食べる」のは、児童生徒の92.8%である。逆に、「ほとんど食べない」+「食べない」児童生徒は6.8%である。校種別に見ると、「ほとんど食べない」+「食べない」児童生徒は、小学5年生で4.7%、中学2年生で6.6%、高校2年生で9.1%であり、学年が上がるにつれて少しずつ割合が高くなっている。

「朝食」と「就寝時刻」との関係

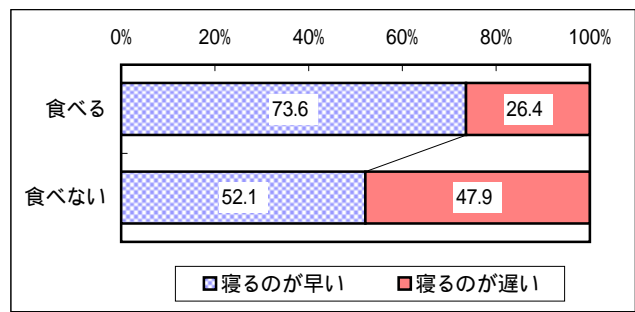
「朝食」は「食べる」(毎日+だいたい)群と、「食べない」(ほとんど+食べない)群の二つに分け、「就寝時刻」は、各学年のピークの時間帯(小...午後10時頃、中...午後11時頃、高...午前0時頃)を境とし、「早い」(ピークの時間帯を含む)群と「遅い」(それ以降)群の二つに分けた(前項参照)。

【小学5年生】



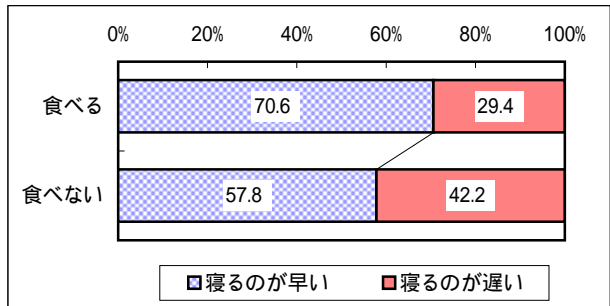
食べる:n=1027 食べない:n=50 【***】

【中学2年生】



食べる:n=1003 食べない:n=71 【***】

【高校2年生】



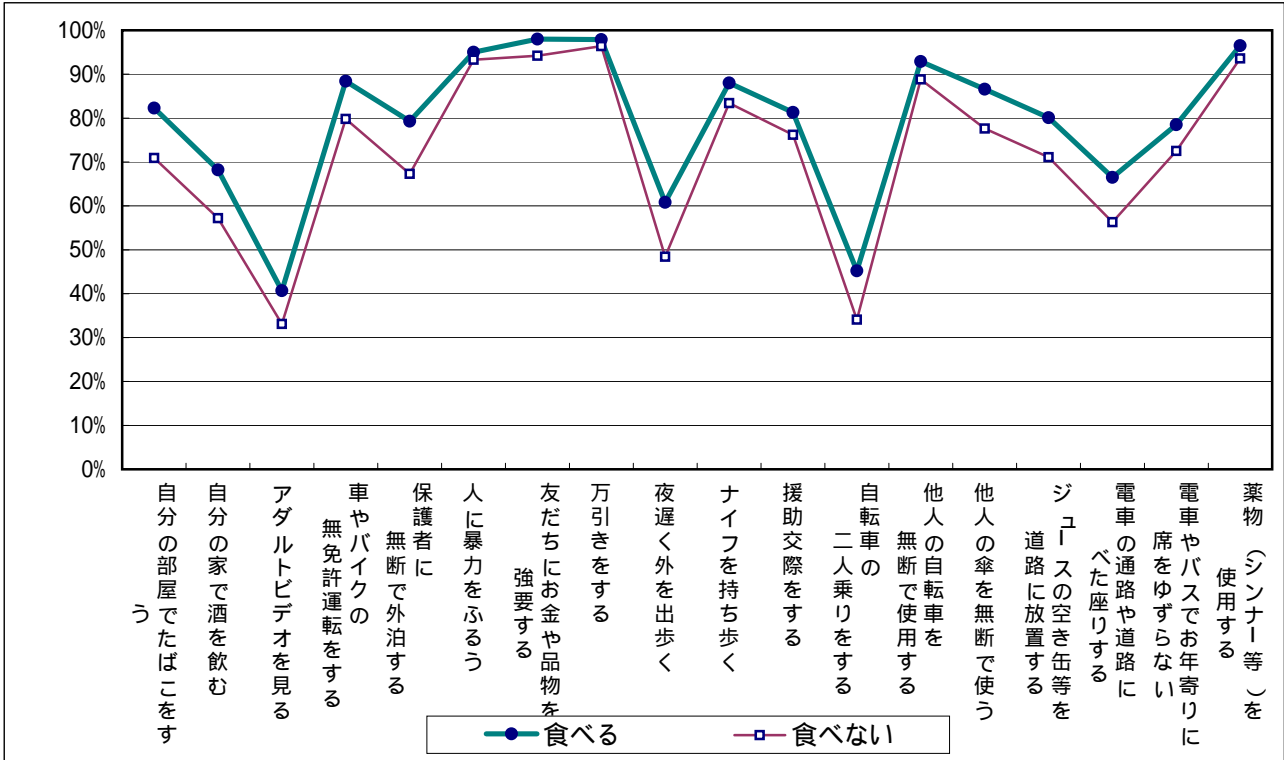
食べる:n=1013 食べない:n=102 【**】

各学年とも、朝食を「食べない」群は、「食べる」群よりも、就寝時刻が遅い者が多い。就寝時刻が遅いために、食事をする時間がとれなかったり、食欲がわかなくなったりする児童生徒の存在がうかがえる。夜型の生活が、朝食の機会を奪っている要因の一つだと考えられる。

「朝食」と「友だちの行為に対する善悪の判断」(規範意識)との関係

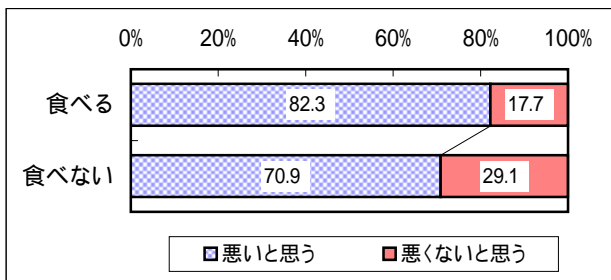
「朝食」は、「食べる」(毎日+だいたい)群と、「食べない」(あまり+食べない)群の二つに分け、「友だちの行為に対する善悪の判断」は、「悪い」(とても+かなり)群と、「悪くない」(あまり+まったく)群の二つに分けて分析した。

各項目に対して「悪い」と思うものの割合(全児童生徒)



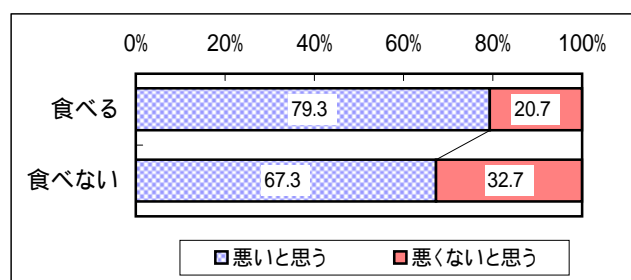
顕著な傾向を示した項目(全児童生徒)

【自分の部屋でたばこをすう】



食べる:n=3033 食べない:n=223 [***]

【保護者に無断で外泊する】

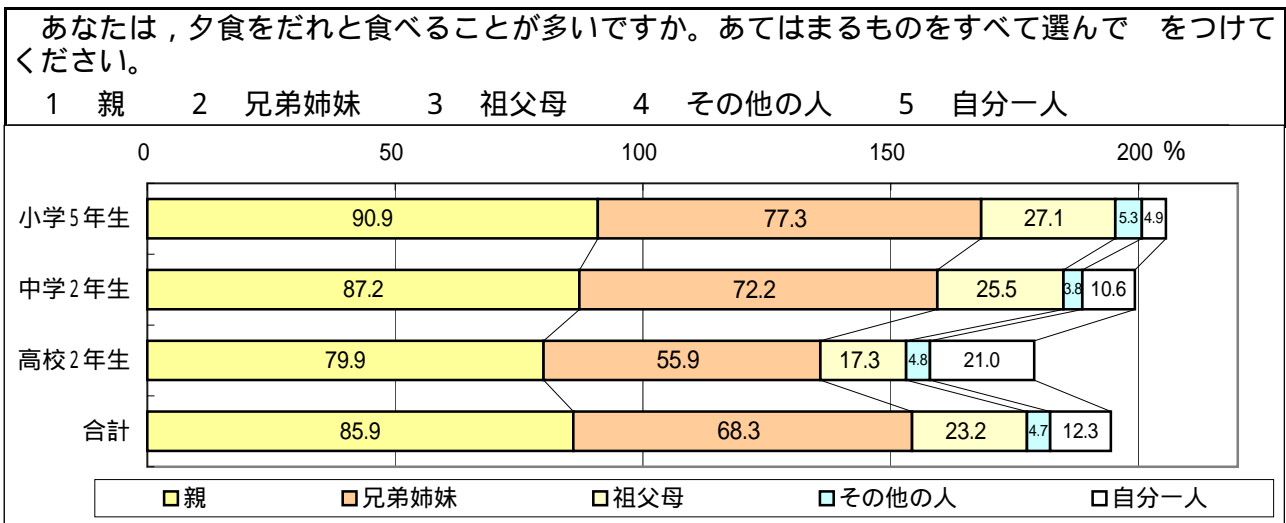


食べる:n=3031 食べない:n=223 [***]

18項目すべてにおいて、朝食を「食べる」群の「悪いと思う」割合が、「食べない」群の「悪いと思う」割合よりも高い(内14項目において有意差が認められた)。

朝食を「食べている」児童生徒が、「食べていない」児童生徒より規範意識が高い傾向にある。

5. 夕食の相手 【小学5年生...問8】 【中学2年生...問8】 【高校2年生...問8】

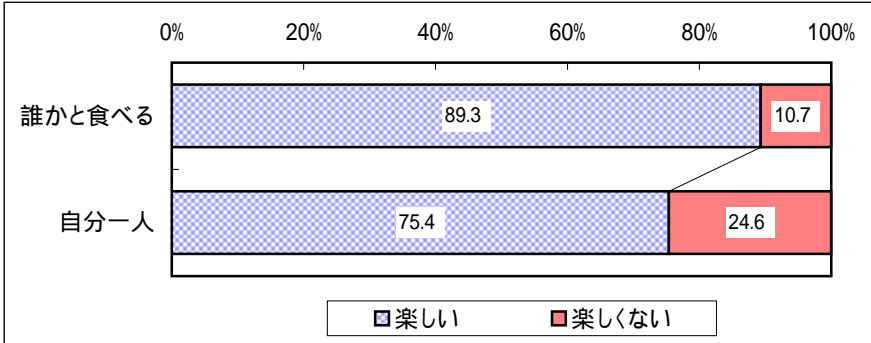


(複数回答のため、各回答の合計は100%をこえる。以下のグラフも複数回答の場合は同様である。)

小・中・高とも最も多いのは「親」で、ついで「兄弟姉妹」の順である。一方、小学5年生の20人に1人、中学2年生の10人に1人、高校2年生の5人に1人は、自分一人で食べていることになる(小学5年生で4.9%、中学2年生で10.6%、高校2年生で21.0%)。

「夕食の相手」と「家庭の楽しさ」との関係

夕食を「誰かと食べる」(全体から「自分一人で食べる」を除いたもの)群と、「自分一人で食べる」群に分け、家庭生活を「楽しい」(楽しい+だいたい)と感じる群と、「楽しくない」(あまり楽しくない+楽しくない)と感じる群にそれぞれ分けてクロス集計をした。



誰かと食べる : n=2861 一人で食べる : n=402 [***]

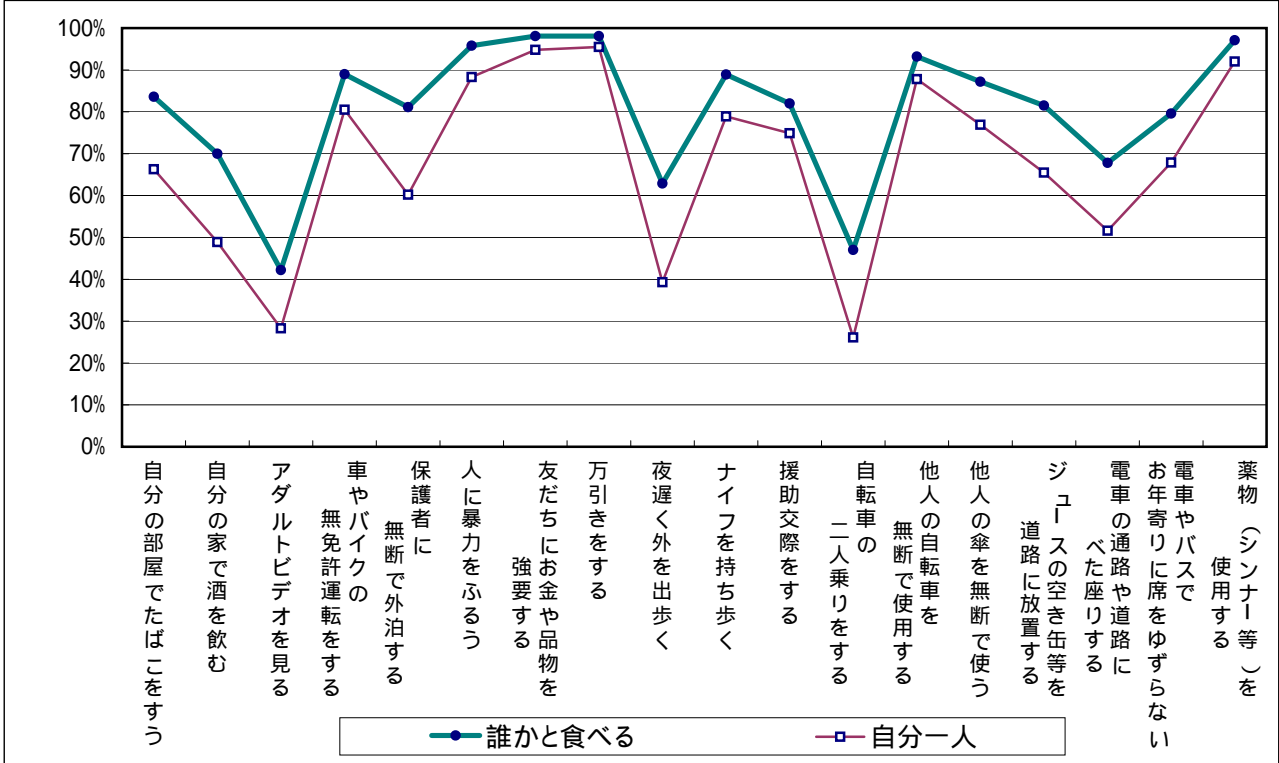
「自分一人で食べる」群が、「誰かと食べる」群よりも、「楽しくない」と答えた児童生徒の割合が高い。

一人の夕食を余儀なくされている児童生徒は、誰かと食事を共にしている児童生徒よりも家庭での充実感が低くなっている。

「夕食の相手」と「友だちの行為に対する善悪の判断」(規範意識)との関係

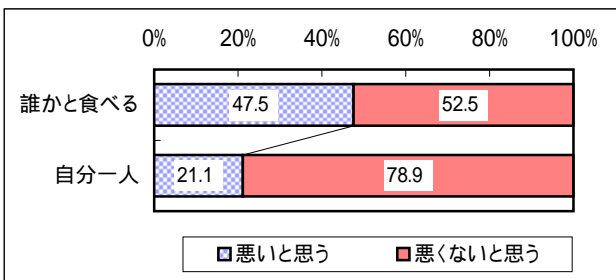
「夕食の相手」は「誰かと食べる」(全体から「自分一人で食べる」を除いたもの)群と、「自分一人で食べる」群に分けた。「友だちの行為に対する善悪の判断」は、「悪い」(とても+かなり)群と、「悪くない」(あまり+まったく)群の二つに分けた。

各項目に対して「悪い」と思う者の割合(全児童生徒)



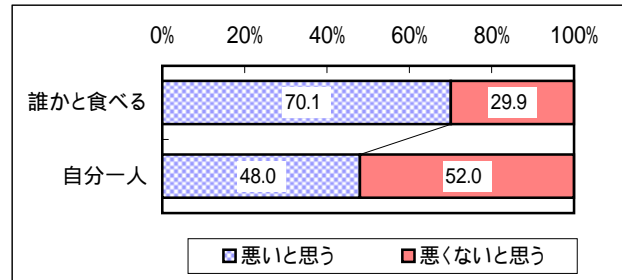
顕著な傾向を示した項目(全児童生徒)

【自転車の二人乗りをする】



誰かと食べる:n=2852 一人で食べる:n=404 [***]

【自分の家で酒を飲む】



誰かと食べる:n=2850 一人で食べる:n=402 [***]

すべての項目において、「誰かと食べる」群の「悪いと思う」割合が、「一人で食べる」群の「悪いと思う」割合よりも高い(18項目中17項目において有意差が認められた)。

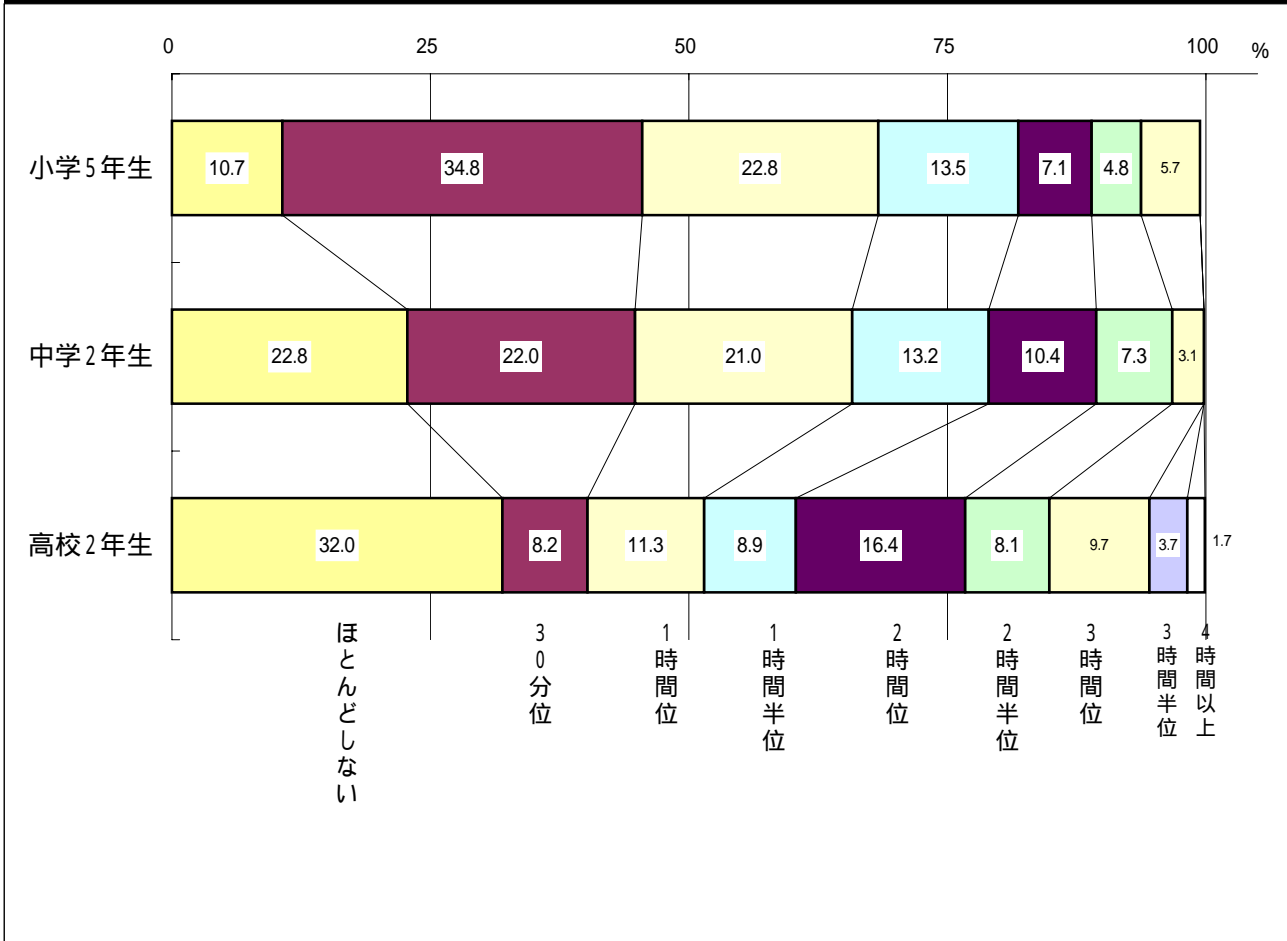
夕食を「誰かと食べている」児童生徒が、夕食を「一人で食べる」児童生徒より、規範意識が高い傾向がある。

夕食時の会話や団らんが、児童生徒の規範意識を育成するのに有効であると考えられる。

6 . 学習時間 【小学5年生...問9】 【中学2年生...問9】 【高校2年生...問9】

平日の下校後、家庭と塾を合わせて一日平均どのくらい学習していますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

(小学5年生・中学2年生用)		1	ほとんどしない	2	30分位	3	1時間位		
4	1時間半位	5	2時間位	6	2時間半位	7	3時間以上		
(高校2年生用)		1	ほとんどしない	2	30分位	3	1時間位	4	1時間半位
5	2時間位	6	2時間半位	7	3時間位	8	3時間半位	9	4時間以上



家庭と塾とを合わせた学習時間について、小学5年生で最も多いのは「30分位」(34.8%)であり、次に「1時間位」(22.8%)、「1時間半位」(13.5%)の順となっている。

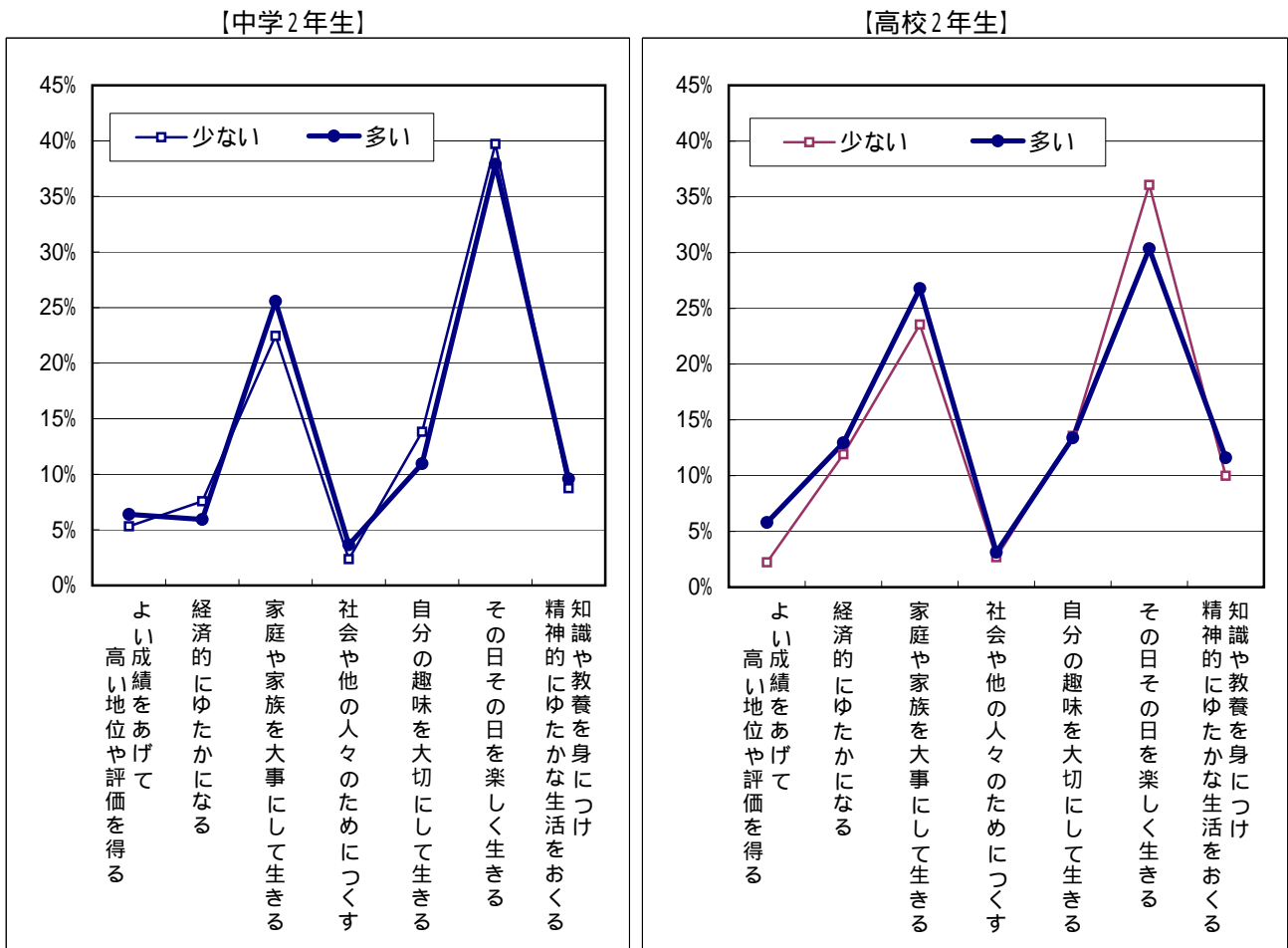
中学2年生で最も多いのは「ほとんどしない」(22.8%)であり、次いで「30分位」(22.0%)、「1時間位」(21.0%)の順となっている。

高校2年生で最も多いのは「ほとんどしない」(32.0%)であり、次いで「2時間位」(16.4%)、「1時間位」(11.3%)の順となっている。なお、15.1%の生徒は、3時間以上の学習を行っている。

家庭(塾)で「ほとんど学習しない」のは、小学5年生で10.7%、中学2年生で22.8%、高校2年生で32.0%である。「ほとんどしない」と「30分位」を合わせると、小学5年生45.5%、中学2年生で44.8%、高校2年生で40.2%であり、いずれも4割強となっている。

「学習時間」と「子どもの生き方」(社会生活他)との関係

「学習時間」を、「多い」(「2時間位」以上)群と、「少ない」(「2時間位」未満)群に分け、「子供の生き方」の各回答における割合を学年別に比較した(小学5年生は「子供の生き方」の設問なし)。



中学2年生は、学習時間の多少による「生き方に対する考え方」の差はほとんど見られない。

高校2年生は、「よい成績をあげて高い地位や評価を得る」「家庭や家族を大事にして生きる」の項目において有意差が見られた。学習時間が多い方が、この2項目に対する希望が高いことがわかる。

全体を通して見ると、学習時間の多少による「生き方に対する考え方」の明確な違いは認められなかった。

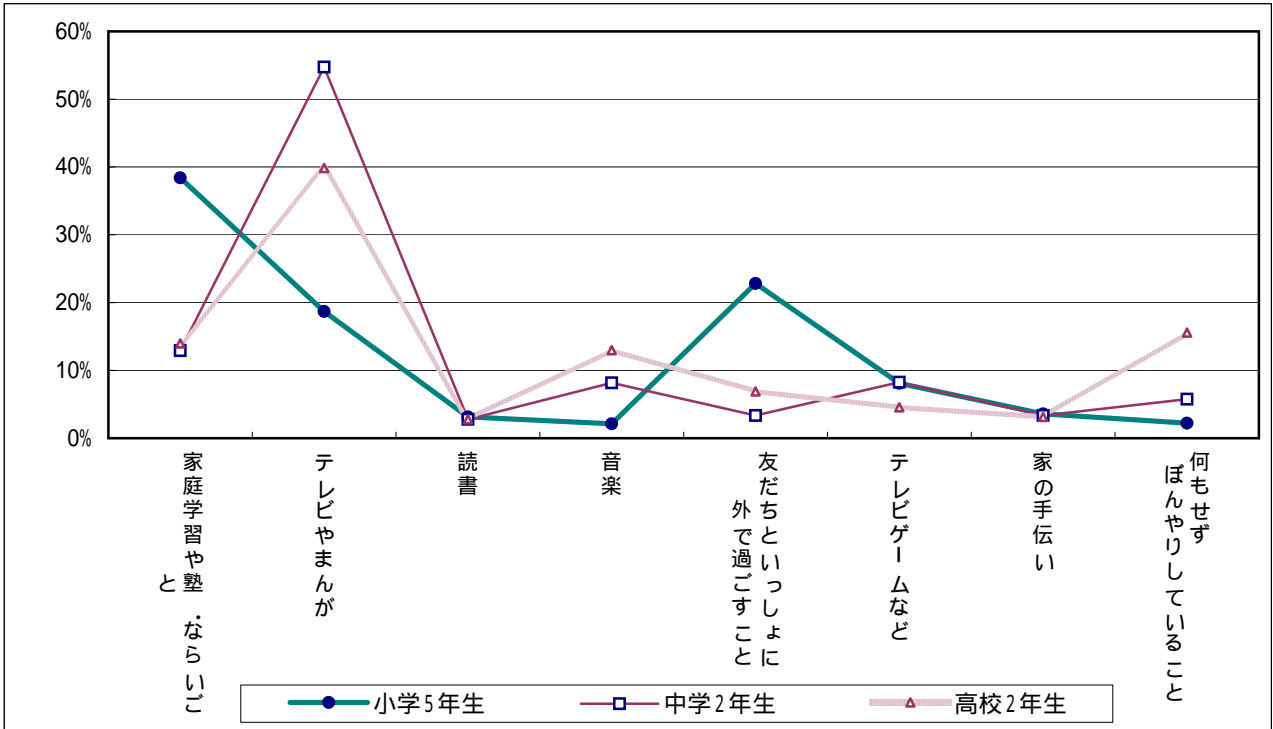
学習離れが叫ばれているとおり、全体的に家庭における学習時間が少ない。また、学習時間が多いと思われる児童生徒についても、将来の生き方につなげるための学習には至っていない。受動的な学習姿勢がうかがえる。

家庭・学校が、学習の意義をともに考え、自己実現のための積極的な営みとなるような指導や援助の手だてが望まれる。

7. 下校後の過ごし方 【小学5年生...問10】【中学2年生...問10】【高校2年生...問10】

平日の下校後、時間を一番多く使うものは何ですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- | | | | |
|--------------------|------------|---------|------|
| 1 家庭学習や塾・ならいごと | 2 テレビやまんが | 3 読書 | 4 音楽 |
| 5 友だちといっしょに外で過ごすこと | 6 テレビゲームなど | 7 家の手伝い | |
| 8 何もせずぼんやりしていること | | | |



小学5年生では、「家庭学習や塾・ならいごと」(38.4%)が最も多く、次いで「友達といっしょに外で過ごすこと」(22.8%)、「テレビやまんが」(18.7%)の順となっている。中学2年生では、「テレビやまんが」(54.7%)が最も多く、次いで「家庭学習や塾・ならいごと」(12.9%)、「テレビゲームなど」(8.3%)の順となっている。高校2年生では、「テレビやまんが」(39.8%)が最も多く、次いで「何もせずぼんやりしていること」(15.6%)、「家庭学習や塾・ならいごと」(14.0%)の順となっている。

「テレビやまんが」「音楽」「何もせずぼんやり」の三つを合わせると、中学2年生68.7%、高校2年生68.4%でほぼ変わらず、中高生とも、7割近くが下校後はのんびりと過ごしている様子がわかる。

8. 注意の程度 【小学5年生...問11】 【中学2年生...問11】 【高校2年生...問11】
 【教員...問7】 【保護者...問11】

家の人(学校や家庭では)次のことについて、どの程度注意をしますか。それぞれあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

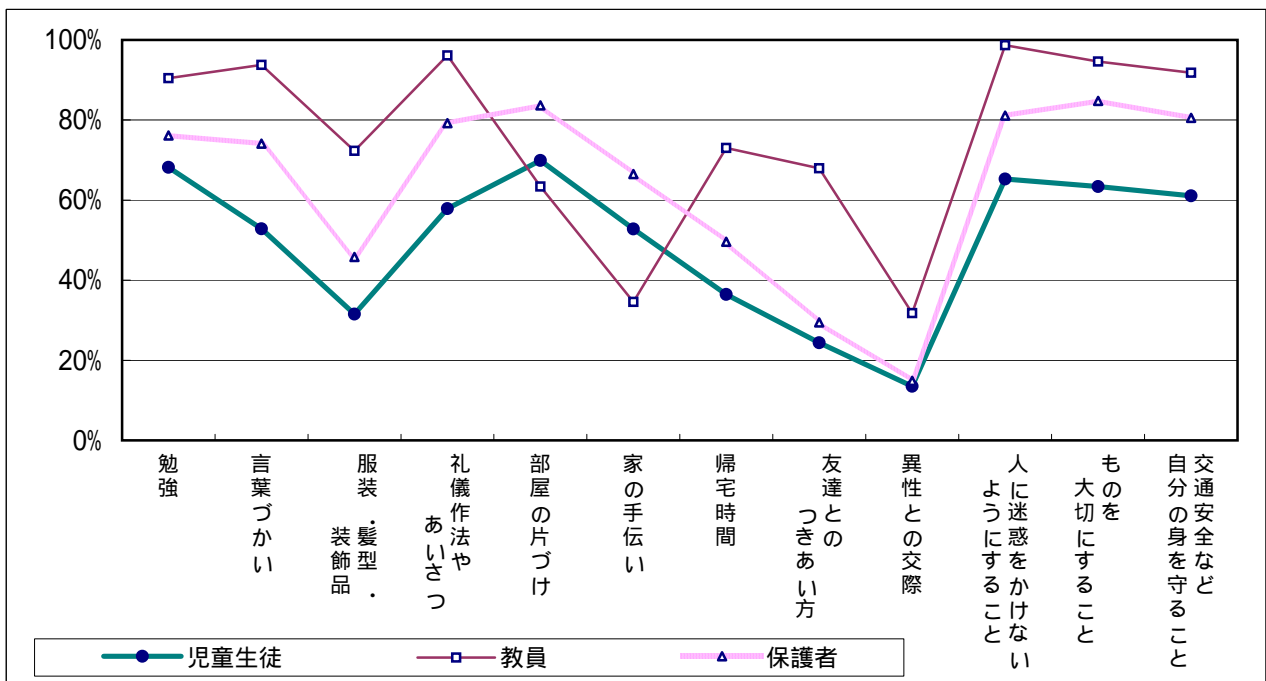
- 1 よく注意する 2 時々注意する 3 あまり注意しない 4 まったく注意しない

【項目】

勉強	部屋の片づけ	異性との交際(小学5年生は除く)
言葉づかい	家の手伝い	人に迷惑をかけないようにすること
服装・髪型・装飾品	帰宅時間	ものを大切にすること
礼儀作法やあいさつ	友だちとのつきあい方	交通安全など自分の身を守ること

各項目における「注意する」(よく注意する+時々注意する)割合

全体



児童生徒の場合、「家の人(学校や家庭では)が注意する」(よく+時々)ことで最も割合が高いのは、「部屋の片づけ」で69.4%、次いで「勉強」67.8%、「人に迷惑をかけないようにすること」64.8%の順になっている。

教員は、「人に迷惑をかけないようにすること」98.3%、「礼儀作法やあいさつ」95.7%、「ものを大切にすること」94.2%、保護者は、「ものを大切にすること」83.6%、「部屋の片づけ」82.6%、「人に迷惑をかけないようにすること」80.0%の順である。

逆に、少ない方に目を向けると、児童生徒は、「異性との交際」13.4%、「友だちとのつきあい方」24.1%、「服装・髪型・装飾品」31.2%の順である。

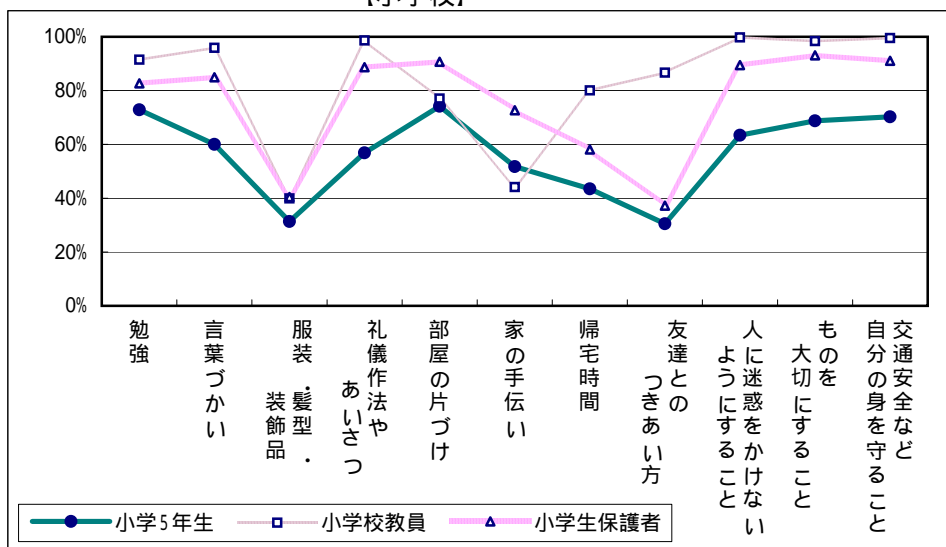
教員は、「異性との交際」31.6%、「家の手伝い」34.4%、「部屋の片づけ」63.2%、保護者は、「異性との交際」14.4%、「友だちとのつきあい方」29.0%、「服装・髪型・装飾品」45.3%の順となっており、児童生徒と保護者は一致している。

すべての項目で教員と保護者の間には10ポイント以上開きがある。全般的に教員の方がポイントが高いが、開きの大きいものとしては、「友だちとのつきあい方」38.8ポイント(教員67.8%、保護者29.0%)、「服装・髪型・装飾品」26.8ポイント(教員72.1%、保護者45.3%)、「帰宅時間」23.9ポイント(教員72.8%、保護者48.9%)、「言葉づかい」20.2ポイント(教員93.4%、保護者73.2%)である。逆に保護者の方がよく注意しているのは、「家の手伝い」31.2ポイント(教員34.4%、保護者65.6%)と「部屋の片づけ」19.4ポイント(教員63.2%、保護者82.6%)である。

家庭生活

校種別

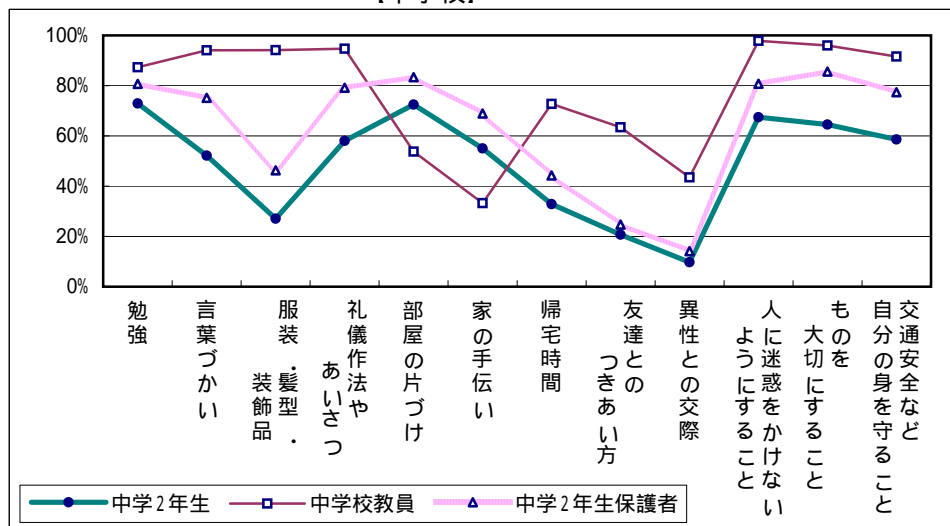
【小学校】



児童生徒と保護者については、全校種とも同じような傾向を示しており、児童生徒が「注意をされている」という意識と、保護者が「注意をしている」という意識がほぼ一致している。

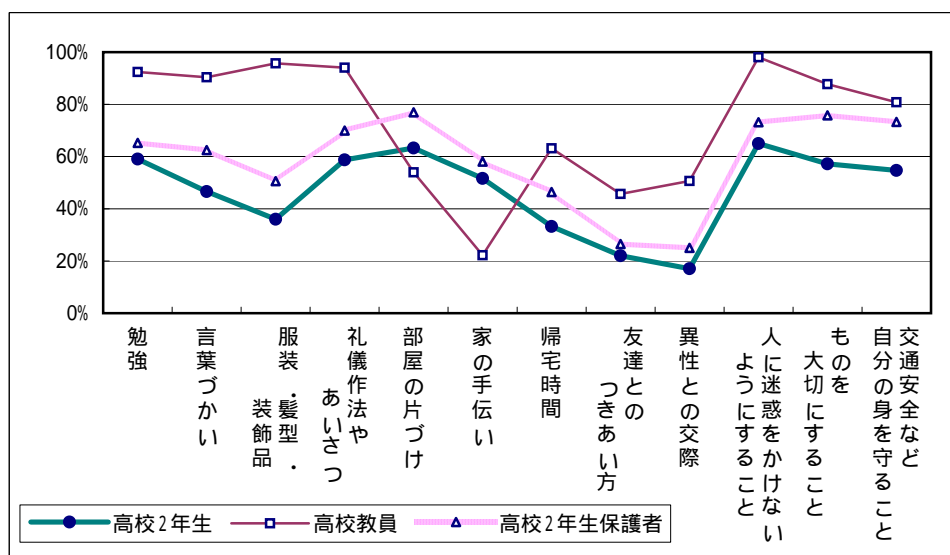
教員は、「部屋の片づけ」「家の手伝い」のように家庭内のこと以外については、全校種にわたり、保護者よりも「注意をしている」という意識が高い。

【中学校】



小学校教員は、中学校教員・高校教員と比較して、「服装・髪型・装飾品」についての注意が少ない。校則にないことや、大きく乱れている児童が少ないなどがその理由として考えられるが、この意識の差は大きい。各発達段階を踏まえたうえで、小中高の連携が必要な指導分野である。

【高校】



家庭生活

「家の人の注意」と「友だちの行為に対する善悪の判断」(規範意識)との関係

「家の人の注意」は、各項目を「注意する」(よく+時々)群と、「注意しない」(あまり+まったく)群に分け、「友だちの行為に対する善悪の判断」は、各項目を「悪いと思う」(とても+かなり)群と、「悪くないと思う」(あまり+まったく)群の二つに分けた。

そして、各項目について、「注意する」家庭の児童生徒で友だちの反社会的・非社会的行動を「悪いと思う」割合と、「注意しない」家庭の児童生徒で「悪いと思う」割合を比較した。

注意の項目	友だちの行為	自分の部屋でたばこをすう	自分の家で酒を飲む	アダルトビデオを見る	無免許運転をする	黙って外泊をする	人に暴力をふるう	人に金品を強要する	万引きをする	夜遅く外を出歩く	ナイフを持ち歩く	援助交際をする	自転車の二人乗りをする	他人の自転車に黙って乗る	他人の傘を無断で使う	道路に放置するジュースなどの空き缶を	電車の通路や道路にべた座りする	電車をバスでお年寄りに席をゆずらない	薬物を使用する
勉強	7.8 ***	12.5 ***	10.6 ***	2.8	7.4 ***	1.7 *	0.1	1.2 *	6.5 ***	5.1 ***	1.2	9.9 ***	2.2 *	4.7 ***	2.7	9.1 ***	3.7 *	0.7	
言葉づかい	5.9 ***	6.8 ***	4.5 *	1.4	5.7 ***	2.4 **	0.7	0.8	10.2 ***	5.1 ***	1.7	7.7 ***	3.2 ***	4.6 ***	6.2 ***	8.4 ***	7.7 ***	1.3	
髪型・服装・装飾品	-1.5	-2.4	-3.8	-4.1 **	-0.4	-0.2	0.0	-0.4	-1.6	-0.1	0.5	-1.9	-0.2	-1.8	0.0	-0.5	3.3 *	1.0	
礼儀作法やあいさつ	2.4	1.7	3.3	1.6	3.9 **	0.7	1.2 *	0.4	3.3	2.7 *	4.2 *	1.6	1.7	3.2 *	4.2 **	2.9	4.4 **	2.5 **	
部屋の片づけ	8.4 ***	8.7 ***	7.5 ***	5.2 ***	7.4 ***	2.4 **	1.0	1.0	7.5 ***	4.1 **	7.5 ***	6.7 ***	2.8 **	4.4 ***	5.8 ***	6.4 ***	3.8 *	0.8	
家の手伝い	3.3 *	4.1 *	6.1 **	3.8 **	4.7 **	1.0	-0.4	0.3	5.5 **	2.4 *	6.0 ***	1.8	2.5 **	1.7	5.6 ***	4.7 **	5.5 ***	0.8	
帰宅時間	2.5	5.0 **	3.2	-1.4	4.5 **	0.9	0.3	0.5	7.6 ***	4.3 ***	1.1	6.4 ***	1.1	1.2	4.5 **	3.3	5.8 ***	2.4 **	
友だちとのつきあい方	3.2 *	9.4 ***	8.8 ***	-0.3	6.1 ***	0.3	0.7	1.1	8.0 ***	3.4 *	-0.1	12.5 ***	1.8	3.1 *	5.1 **	9.4 ***	3.7 *	1.4	
異性との交際	-3.7	-0.6	2.4	-4.3 *	2.3	-0.3	-0.1	0.9	4.7	2.6	3.1	4.3	-0.1	2.7	3.4	-0.5	6.6 *	-0.1	
人に迷惑をかけないようにすること	-1.1	-0.1	1.3	-1.4	2.3	1.1	0.8	-0.9	-1.1	0.4	0.3	-0.7	-0.2	0.0	2.8	1.2	2.9	-0.3	
ものを大切にすること	5.7 ***	8.1 ***	5.1 *	2.0	7.6 ***	2.1 **	0.2	0.2	6.5 ***	5.5 ***	2.4	9.3 ***	2.4 *	2.6 *	5.7 ***	9.2 ***	7.7 ***	1.6	
交通安全など自分の身を守ること	10.0 ***	12.8 ***	9.7 ***	4.2 **	13.5 ***	3.4 ***	1.6 **	1.6 **	14.1 ***	7.9 ***	5.7 ***	16.4 ***	6.4 ***	6.6 ***	10.0 ***	13.3 ***	11.8 ***	3.9 ***	

上段...家の人が「注意する」群の「悪いと思う」割合から、「注意しない」群の「悪いと思う」割合をひいた差。
 下段...統計的検定による有意差。 * は5%水準, ** は1%水準, *** は0.1%水準で有意であることを示す。
 白抜きは有意差が認められた組み合わせ。

(例)勉強を「注意する」家庭の児童生徒で、「自分の部屋でたばこをすう」ことを「悪いと思う」割合...83.9%
 勉強を「注意しない」家庭の児童生徒で、「自分の部屋でたばこをすう」ことを「悪いと思う」割合...76.1%
 83.9 - 76.1 = 7.8(上段) 統計的な検定の結果, 0.1%水準で有意 *** (下段)

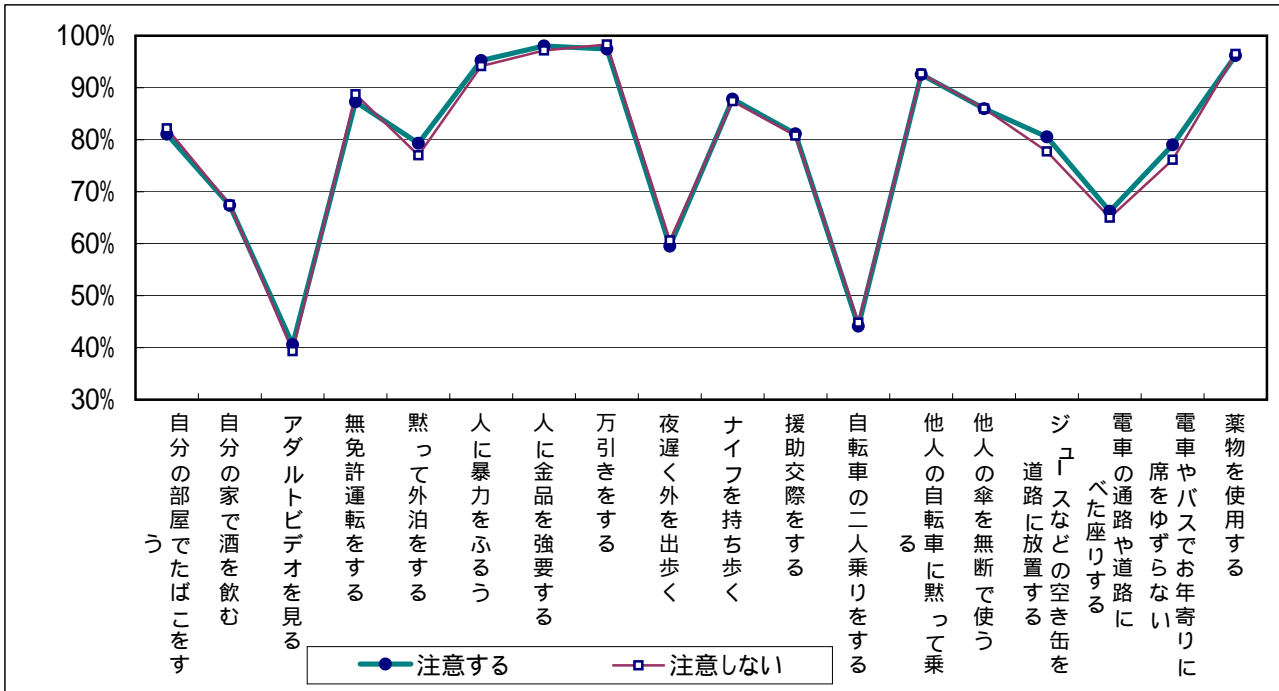
全体的に「注意をされる」頻度が高い方が、反社会的・非社会的行動に対して、「悪いと思う」割合が高くなっている。

特に、「交通安全など自分の身を守ること」「部屋の片づけ」「ものを大切にすること」などを「注意される」環境にある児童生徒は、そうでない環境よりも規範意識がはぐくまれる傾向にある。

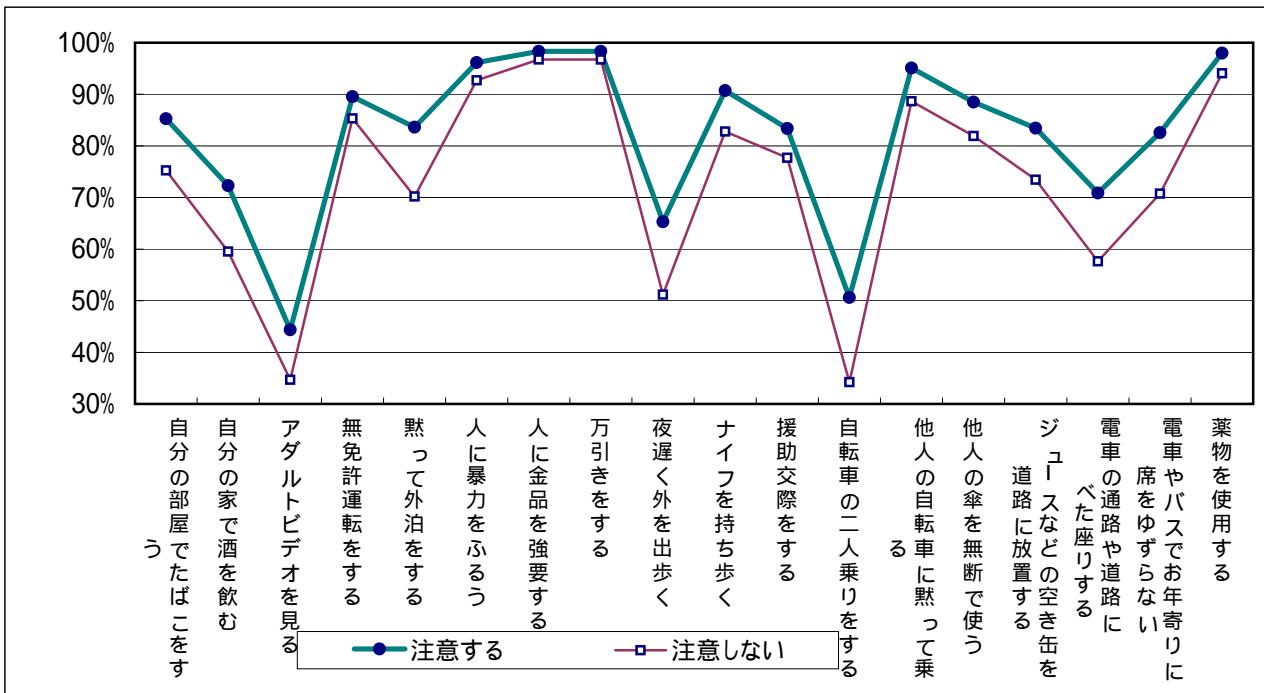
家庭生活

顕著な傾向を示した項目(全児童生徒)

【人に迷惑をかけないようにすること】



【交通安全など自分の身を守ること】



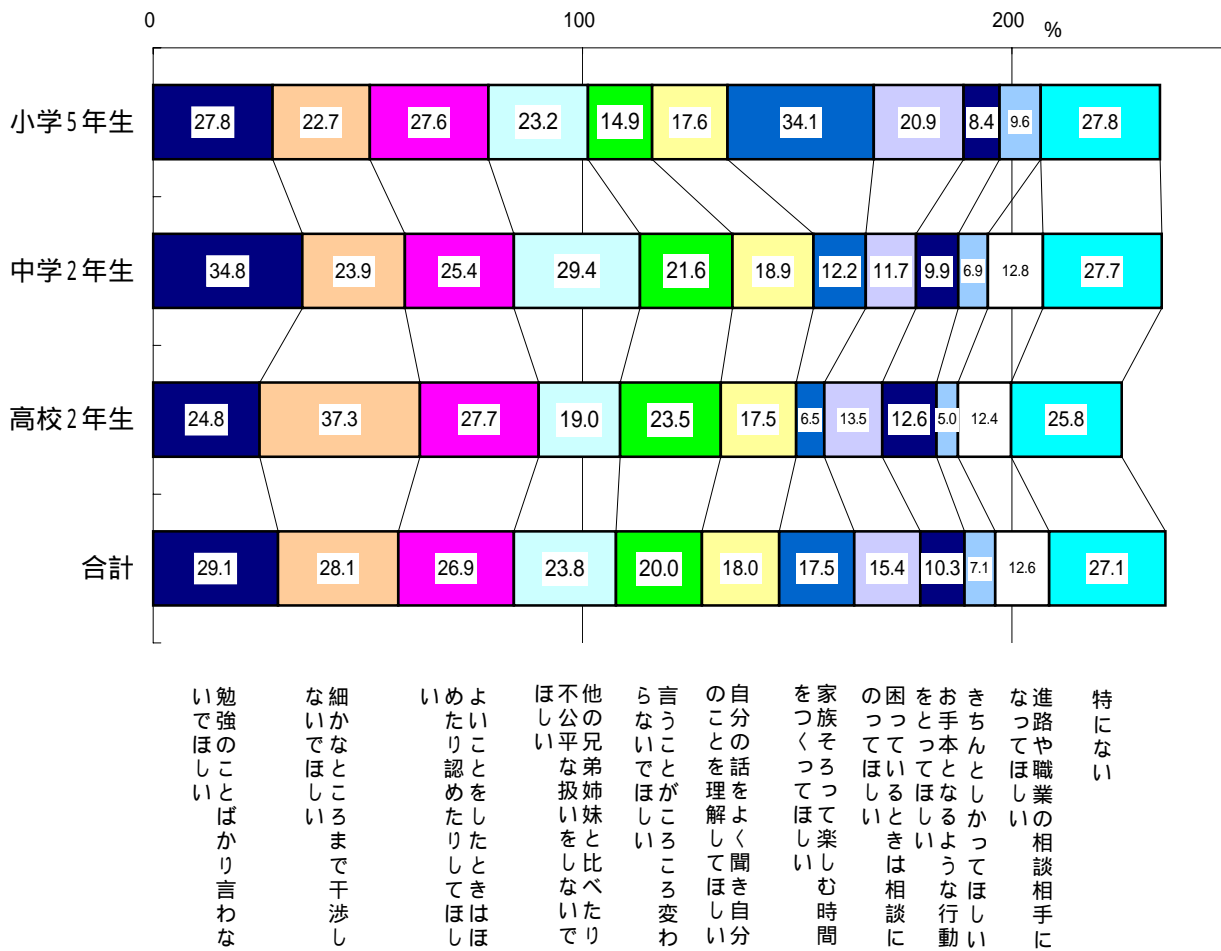
「人に迷惑をかけないようにすること」は、注意されているか否かによる規範意識の差はほとんど見られない。むしろ、人に迷惑をかけることが多いため、この注意が多くなるということも考えられる。「髪型・服装・装飾品」「異性との交際」にしても、同じことが予想できる。

一方、12項目の注意内容の中で、顕著な差が見られたのが「交通安全など自分の身を守ること」である。「交通安全など自分の身を守ること」を注意されるということは、「自分を大切にしろ」「あなたはかけがえのない人だ」というメッセージを受けていることになる。自分が人に愛され、大切にされているという実感をもって初めて、人に優しく、周りに配慮できるようになることをこのデータは示している。

9 家の人にして欲しいこと【小学5年生...問11】【中学2年生...問11】【高校2年生...問11】

あなたは家の人にどんなことをしてほしいですか。次の中からあてはまるものを三つまで選んでつけてください。

- 1 よいことをした時は、ほめたり認めたりしてほしい
- 2 悪いことをしたときは、きちんとしかってほしい
- 3 自分がこまっているときは、相談にのってほしい
- 4 進路や職業について相談相手になってほしい
- 5 勉強のことばかり言わないでほしい
- 6 お手本となるような行動をしてほしい
- 7 家族そろって楽しむ時間をつくってほしい
- 8 言うことがこころ変わらないでほしい
- 9 細かなところまで干渉しないでほしい
- 10 他の兄弟姉妹と比べたり、不公平な扱いをしないでほしい
- 11 自分の話をよく聞き、自分のことを理解してほしい
- 12 特にない



児童生徒が家の人に望むことで、最も多いのは「勉強のことばかり言わないでほしい」(29.1%)であり、次いで「細かなところまで干渉しないでほしい」(28.1%)、「特にない」(27.1%)、「よいことをしたときは、ほめたり認めたりしてほしい」(26.9%)の順となっている。

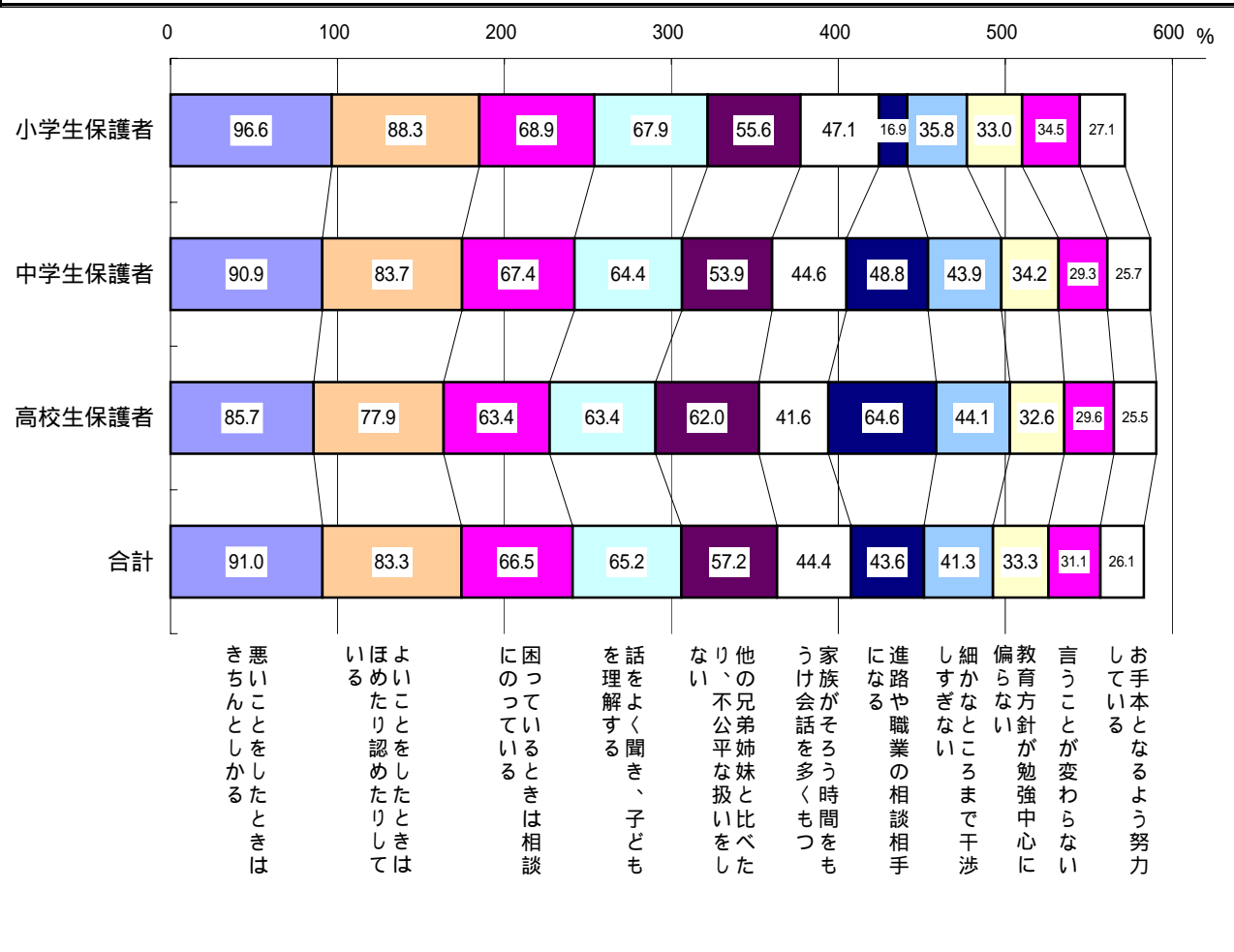
校種別で最も多い項目は、小学5年生では「家族そろって楽しむ時間をつくってほしい」(34.1%)、中学2年生では「勉強のことばかり言わないでほしい」(34.8%)、高校2年生では「細かなところまで干渉しないでほしい」(37.3%)と異なっており、発達段階による特徴が表れている。

「家族そろって楽しむ時間をつくってほしい」の項目は、小学5年生では最も多いが、高校2年生では6.5%と非常に少なくなる。また、「他の兄弟姉妹と比べたり、不公平な扱いをしないでほしい」の項目は、中学2年生では2番目に多く(29.4%)、他校種に比して高くなっているのが特徴的である。

10. 親の指導 【保護者...問11】

子どもさんにどのように接していますか。あてはまるものをすべて選んで をつけてください。

- 1 よいことをした時は、ほめたり認めたりしている
- 2 悪いことをしたときは、きちんとしかる
- 3 困っているときは、相談にのっている
- 4 進路や職業について、相談相手になっている
- 5 教育方針が勉強中心にかたよらないように注意している
- 6 親ができるだけ子どものお手本となるように努力している
- 7 家族がそろう時間をもうけ、会話をできるだけ多くもつように努めている
- 8 子どもに言うことがこころ変わらないように注意している
- 9 細かなところまで干渉しすぎないようにしている
- 10 他の兄弟姉妹と比べたり、不公平な扱いをしないように配慮している
- 11 子どもの話をよく聞き、子どもを理解するように心がけている



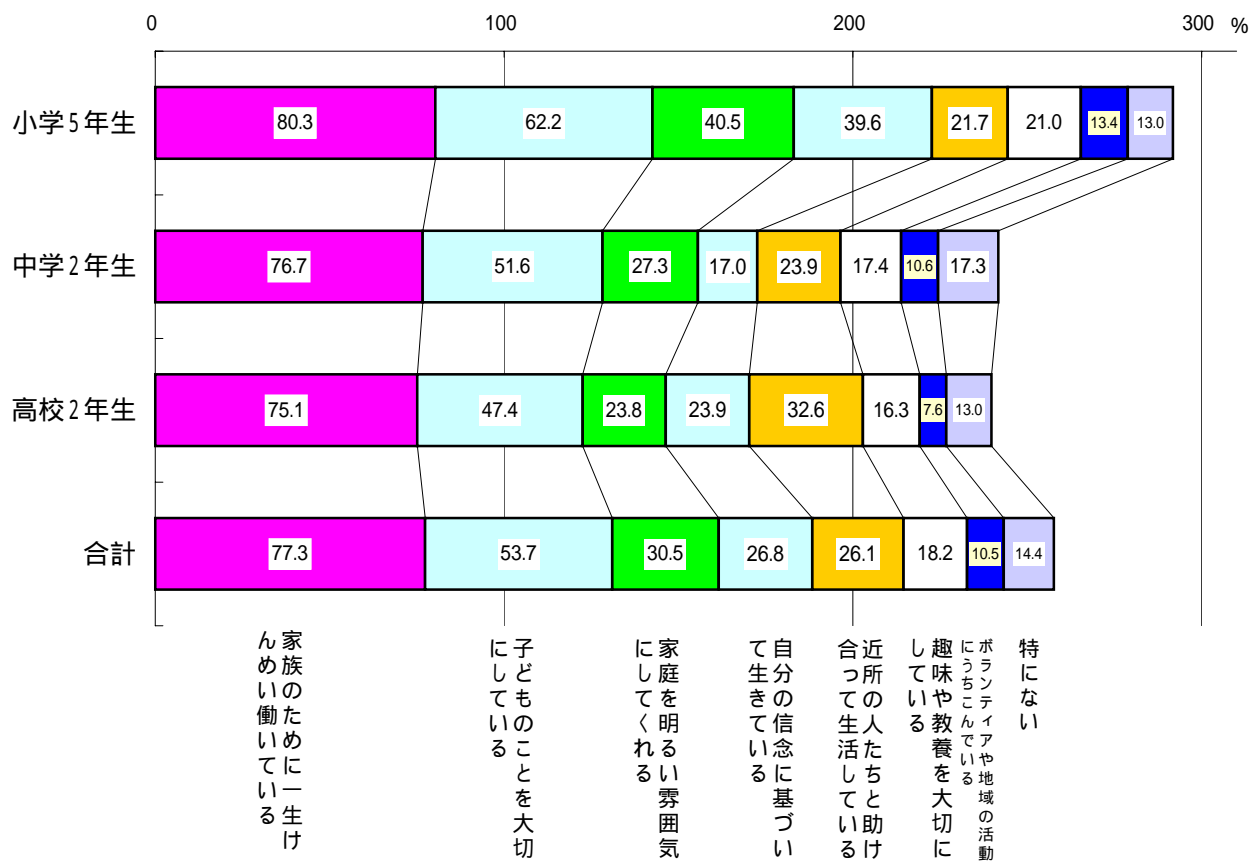
保護者の子どもに対する接し方で、最も回答の割合が高いのは「悪いことをしたときは、きちんとしかる」(91.0%)、次いで「よいことをしたときは、ほめたり認めたりしている」(83.3%)、「困っているときは、相談にのっている」(66.5%)の順となっている。しかし、これらの項目は、小中高と子どもの年齢が上がるにつれて減る傾向にある。

最も回答の割合が低い項目は、「親ができるだけ子どものお手本となるように努力している」(26.1%)である。次いで「子どもに言うことがこころ変わらないように注意している」(31.1%)、「教育方針が勉強中心にかたよらないように注意している」(33.3%)の順になっている。「悪いことをしたときは、きちんとしかる」の項目は、保護者にとって最も回答の割合が高く、児童生徒にとっては最も回答の割合が低い項目となっている。

11. 家の人のすばらしさ 【小学5年生...問13】【中学2年生...問13】【高校2年生...問13】

保護者(親など)の姿を見てすばらしいと思うところは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでつけてください。

- 1 家族のために一生けんめい働いているところ
- 2 子どもを大切にしてくれるところ
- 3 家庭を明るい雰囲気にしてしてくれるところ
- 4 ボランティアや地域の活動等に打ちこんでいるところ
- 5 趣味や教養を大切にしているところ
- 6 近所の人たちと助け合って生活しているところ
- 7 自分の信念に基づいて生きているところ
- 8 特にない



小学5年生，中学2年生，高校2年生ともに，「家族のために一生懸命働いているところ」が最も多く(80.3%，76.7%，75.1%)，次いで「子どもを大切にしてくれるところ」となっている。

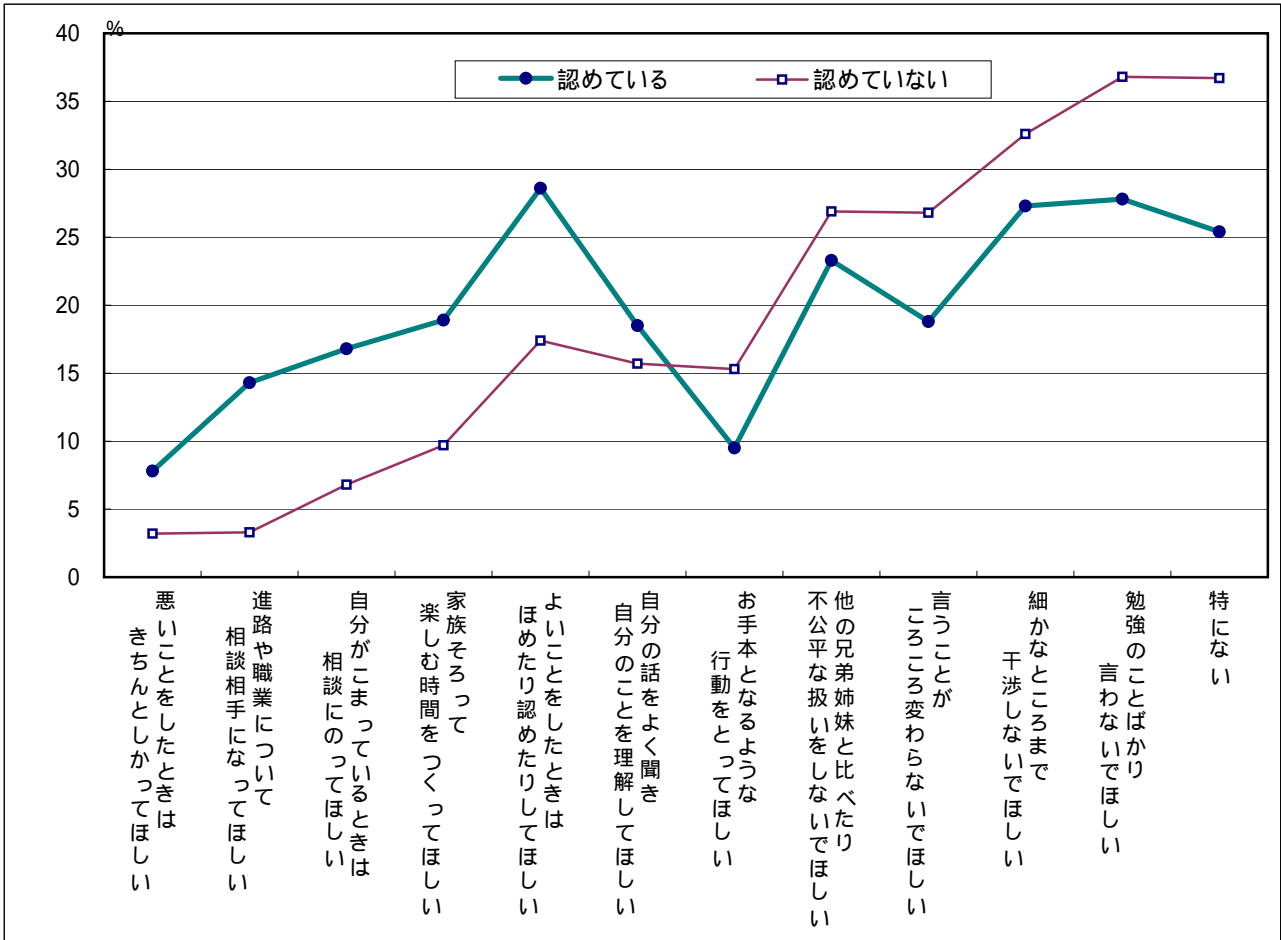
全般的に，小・中・高と学年が上がるにつれて各項目の回答の割合が低くなる傾向にあるが，「近所の人たちと助け合って生活しているところ」は学年が上がるにつれて高くなっている。

小学5年生の「家庭を明るい雰囲気にしてしてくれるところ」(40.5%)，「自分の信念に基づいて生きているところ」(39.6%)は中高生と比べて，10ポイント以上高い回答になっている。

「特にない」と答えたものは，小学5年生13.0%，中学2年生17.3%，高校2年生13.0%である。これを除いた小学5年生87.0%，中学2年生82.7%，高校2年生83.0%は何らかの形で，家の人のすばらしさを認めている。

「家の人のすばらしさ」と「家の人にしてほしいこと」との関係

家の人のすばらしさについては「認めている」(「特がない」を除いて一つ以上選択したもの)群と、「認めていない」(「特がない」だけを選択したもの)群に分け、家の人にしてほしいことの各項目の割合をそれぞれ比較した。



家の人のすばらしさを「認めていない」群は、「認めている」群と比べると、「ほめる、認める」「叱る」「相談相手になる」「家族で楽しむ」等、積極的な関わりに対する要望が少ない。

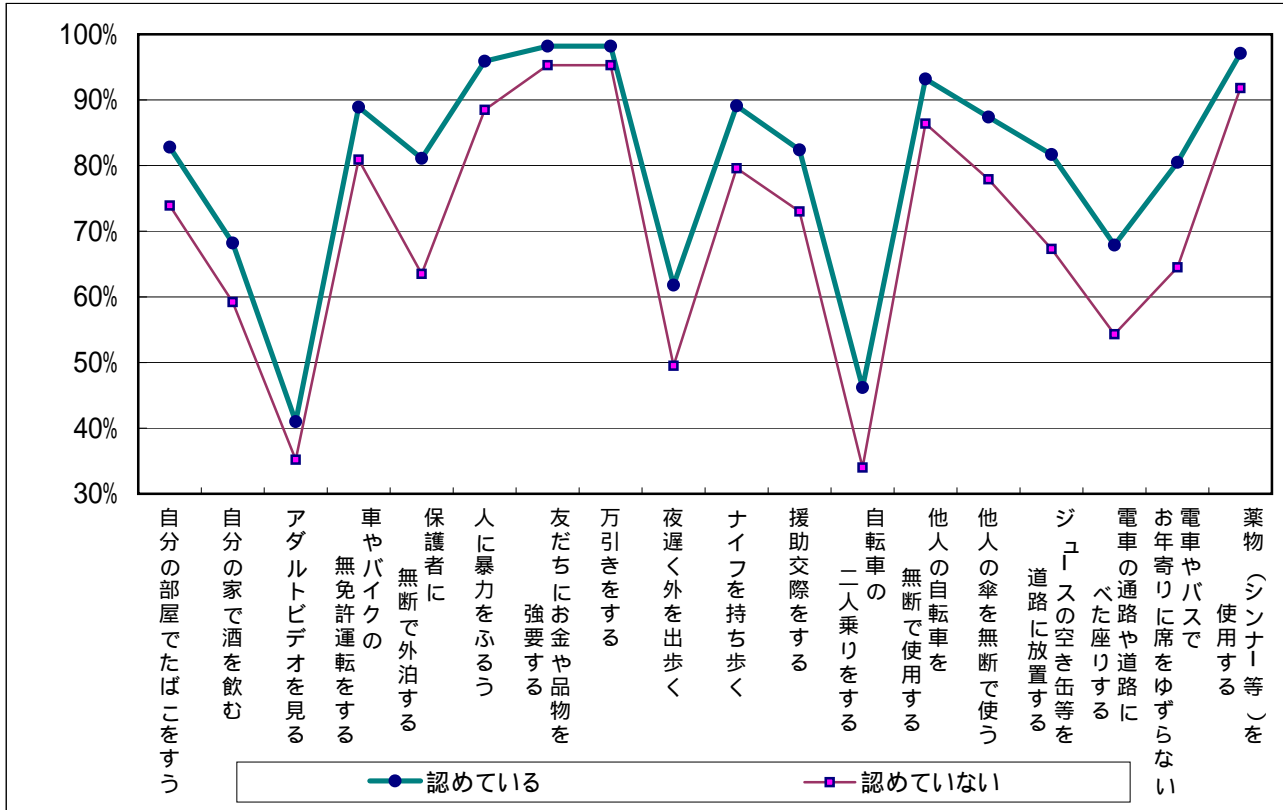
一方、「勉強のことばかり言わないでほしい」「干渉しないでほしい」「言うことが変わらないでほしい」等、家の人の現在の行動を改めてほしいという要望が、「認めている」群を上回った。

また、「認めていない」にもかかわらず、家の人にしてほしいことが「特がない」のが36.1%にのぼる。この群は全児童生徒の約5%にあたるが、もはや家の人には多くを望まないという意識がうかがえる。

「家の人のすばらしさ」と「友だちの行為に対する善悪の判断」(規範意識)との関係

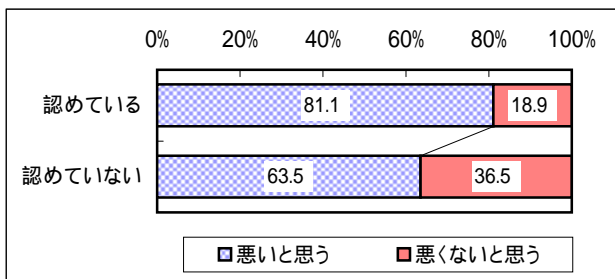
家の人のすばらしさについては「認めている」(「特にない」を除いて一つ以上選択したもの)群と、「認めていない」(「特にない」だけを選択したもの)群に分け、規範意識の各項目については「悪い」(とても+かなり)と思う群と、「悪くない」(あまり+まったく)と思う群とに分けて、クロス集計をした。

規範意識各項目との関係(「悪い」と思う割合)



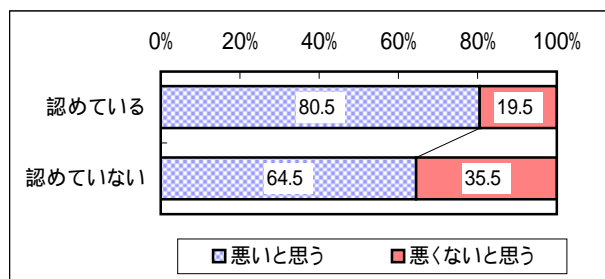
顕著な傾向を示した項目

【保護者に無断で外泊する】



認めている:n=2787 認めていない:n=469 [***]

【電車やバスでお年寄りに席をゆずらない】



認めている:n=2781 認めていない:n=470 [***]

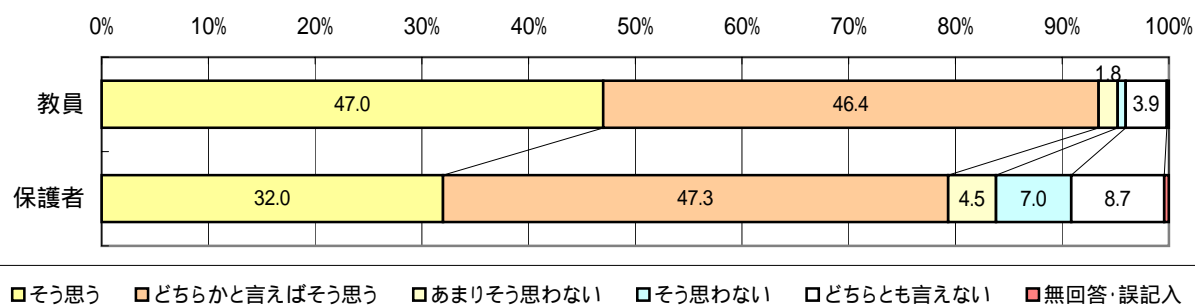
家の人のすばらしさを「認めている」群は、「認めていない」群と比べて、反社会的・非社会的行動について「悪いと思う」児童生徒が多い(全18項目において有意差が認められた)。

家の人を肯定的にとらえている児童生徒は規範意識が高い傾向にある。家の人の生き様を目の当たりにし、行動をお手本として、社会性や規範意識をはぐくんでいくものだと考えられる。

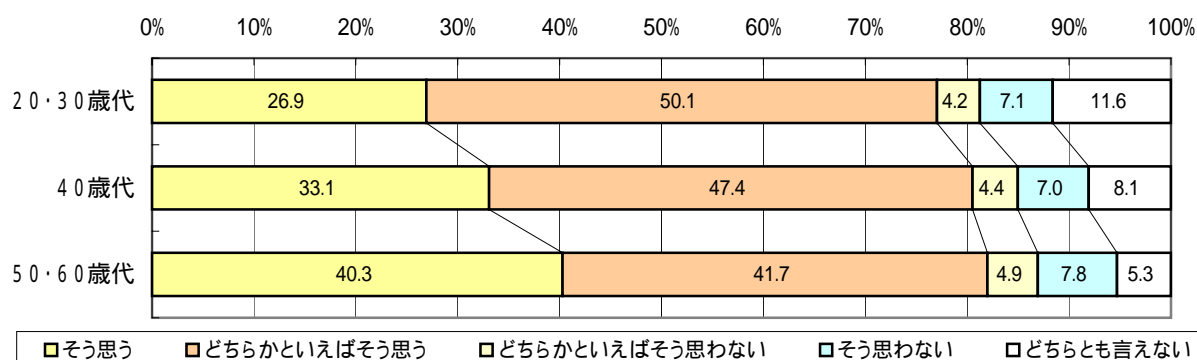
12. 家庭のしつけ 【教員...問5】 【保護者...問7】

最近、家庭でのしつけがあまりされていないという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

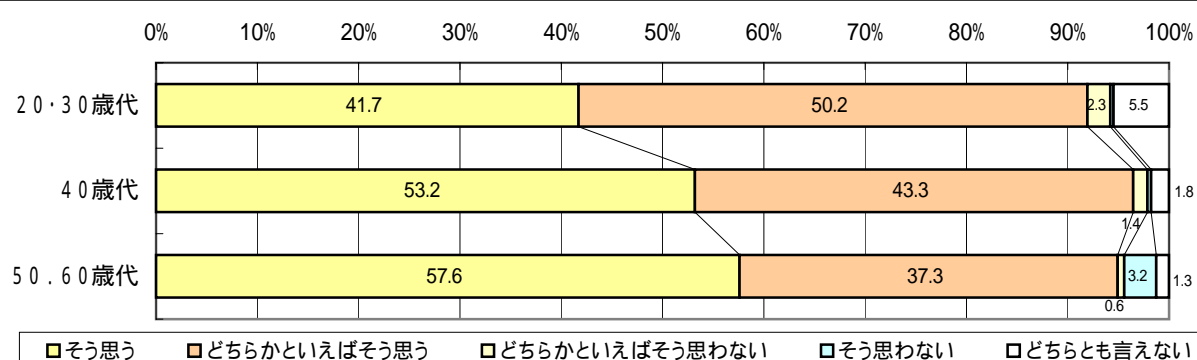
- 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 あまりそう思わない
4 そう思わない 5 どちらともいえない



年代別(保護者)



年代別(教員)



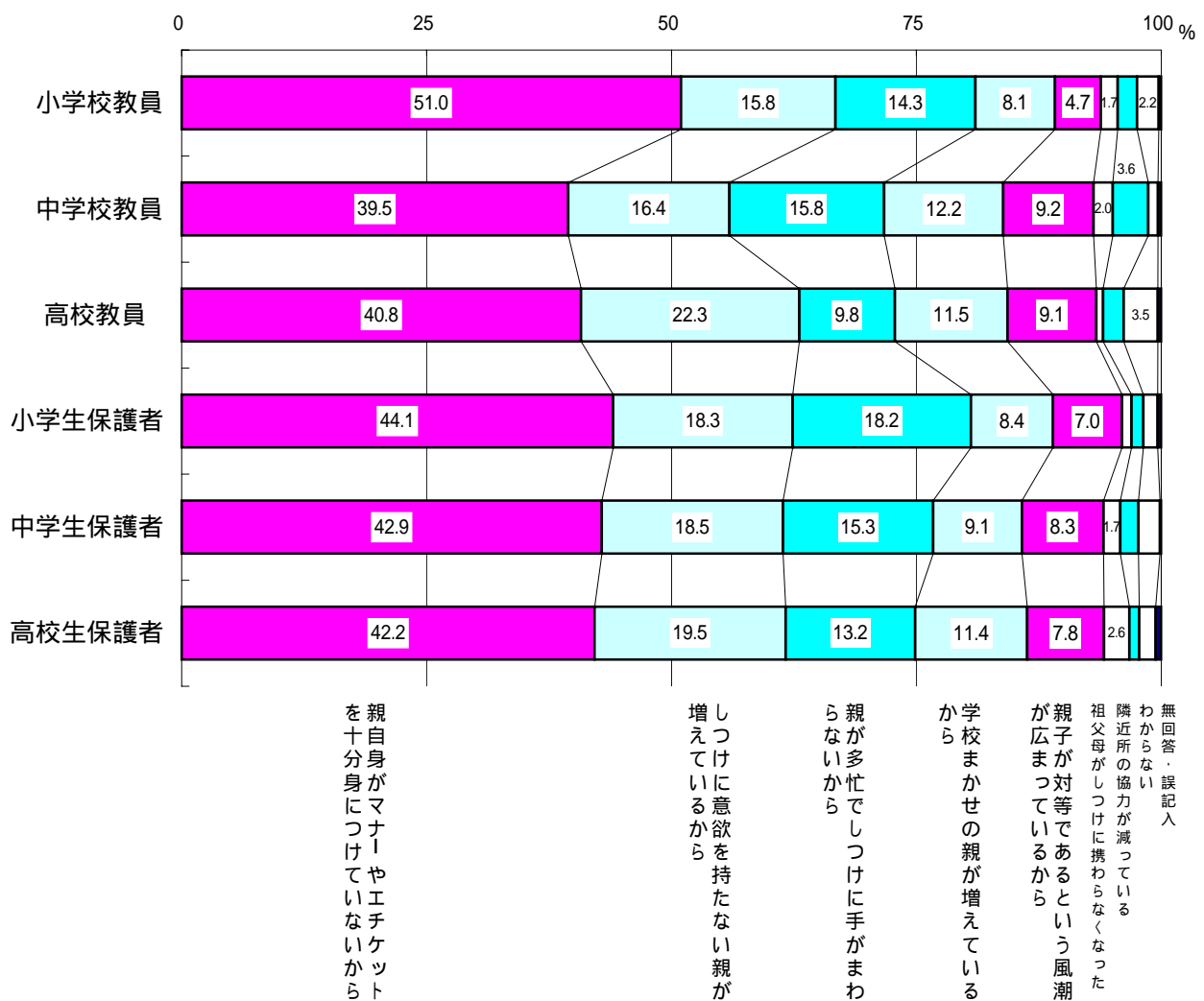
教員と保護者を比べると、「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」では、教員は93.4%と9割を越えており、保護者は79.3%と8割に近い。

教員・保護者とも、年代が上がるにつれて、「そう思う」と答える割合が高くなっている。

13. しつけがされていない原因 【教員...問6】【保護者...問8】

問5で(1)(2)と答えられた方にうかがいます。家庭でのしつけがあまりされていない原因はどこにあると思いますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- 1 学校まかせの親が増えているから
- 2 しつけに意欲を持たない親が増えているから
- 3 祖父母が家庭でのしつけに携わらなくなっているから
- 4 親自身がマナーやエチケットを十分身につけていないから
- 5 家庭でのしつけに、隣近所の協力が減っているから
- 6 親子が対等であるという風潮が広まっているから
- 7 親が多忙で、しつけに手がまわらないから
- 8 わからない

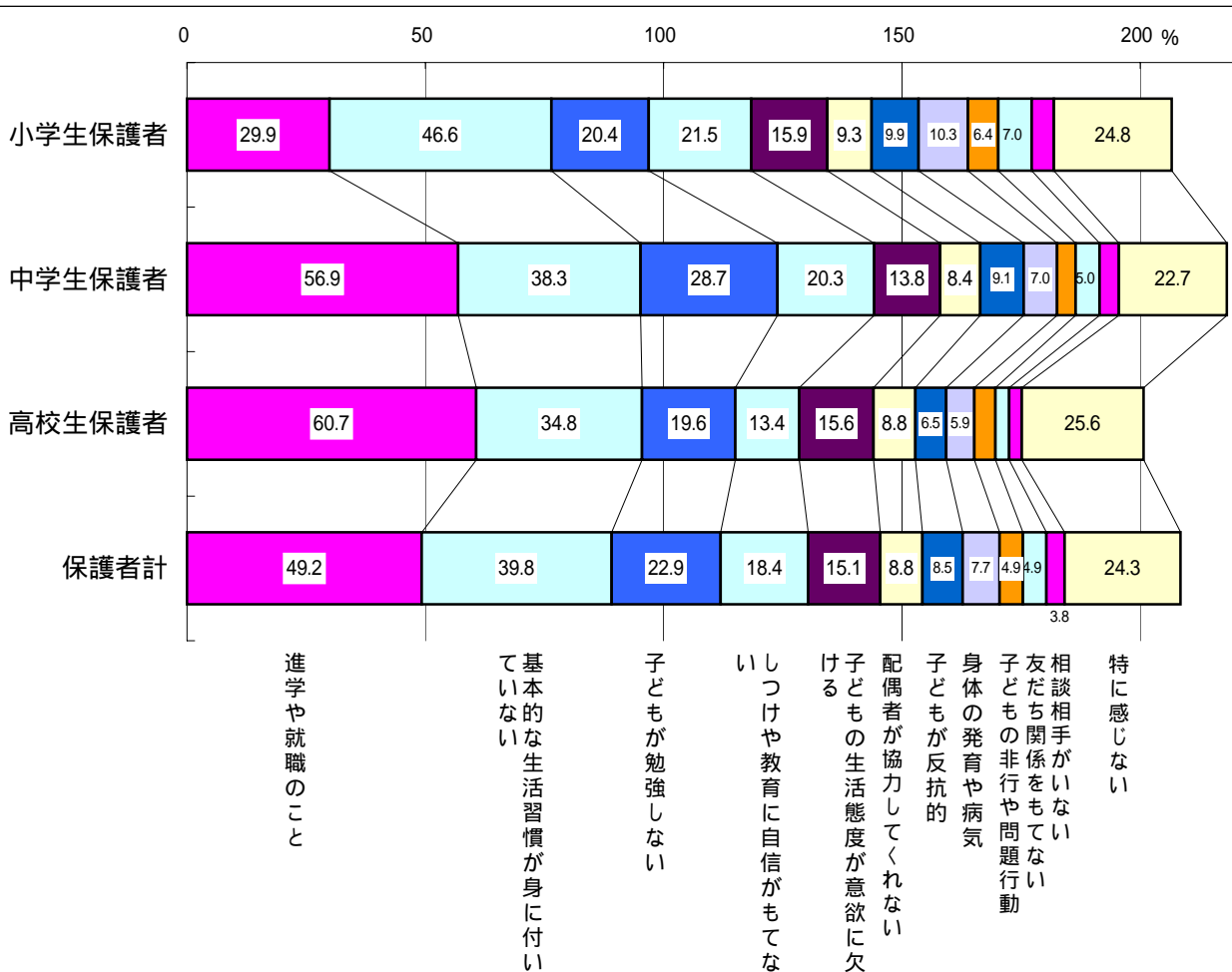


「しつけがされていない原因」については教員と保護者の考え方がほぼ一致している。「親自身がマナーやエチケットを十分身につけていないから」という回答が最も多く、教員(44.5%)、保護者(43.0%)ともに4割以上である。「しつけに意欲を持たない親が増えているから」(教員17.9%、保護者18.8%)が2番目に多く、「親が多忙で、しつけに手がまわらないから」(教員13.4%、保護者15.5%)が3番目に多いという結果になっている。「親自身がマナーやエチケットを十分身につけていないから」についての回答では、保護者間では差がないが、小学校教員は51.0%で、中学校教員の39.5%、高校教員の40.8%より10ポイント以上高い。

14. しつけ・教育についての悩み 【保護者...問9】

子どもさんのしつけや教育について悩んだり、不安を感じていることがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで をつけてください。

- 1 子どもに基本的な生活習慣(あいさつ, 規則正しい食生活, 整理・整頓など)が身に付いていない
- 2 子どもに対するしつけや教育について自信がもてない
- 3 子どもに対するしつけや教育について相談する相手がいない
- 4 配偶者があまり協力してくれない
- 5 子どもが勉強しない
- 6 子どもの進学や就職のことが心配である
- 7 子どもが反抗的でなかなかいうことを聞かない
- 8 子どもの生活態度が意欲に欠ける
- 9 子どもがよい友だち関係をもてない
- 10 子どもの身体の発育や病気が心配である
- 11 子どもの非行や問題行動が心配である
- 12 特に悩みや不安を感じていない



しつけ・教育についての悩みや不安で、最も多いのは「子どもの進学や就職のことが心配である」(49.2%)、次いで「子どもに基本的な生活習慣が身に付いていない」(39.8%)、「子どもが勉強しない」(22.9%)の順である。逆に少ないのは「子どもに対するしつけや教育について相談する相手がいない」(3.8%)、「子どもがよい友だち関係をもてない」「子どもの非行や問題行動が心配である」(ともに4.9%)である。「特に悩みや不安を感じていない」は24.3%である。「基本的な生活習慣」については、小中高と子どもの年齢が上がるにつれて保護者の悩みや不安は減少し、「進学や就職」については子どもの年齢が上がるにつれて増加している。